

多シ同期性並行式ハ之レニ次クモ其ノ數同期性上昇式ニ及ハサル事達シ、優等ニ於テモ同期性上昇式最モ多ク劣等ハ只一名ナルヲ以テ述ヘル必要ヲ認メス、級ノ平均ニ於テハ同期性上昇式最モ多ク實ニ三十%以上ニ達ス、同期性並行式ハ之レニ次クモ其ノ數少ナシ。

第九項 師範二年ニ於ケル曲線型式現出度數

第二拾二表

曲線型式略號	直上	同上	急直上	急回上	直下	回下	急直下	急回下	直上	同上	急直上	急回上	直上	同上	急直上	急回上	直上	同上	急直上	急回上	
男 中等	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
女 中等	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
男 優等	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
女 優等	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
男 劣等	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
女 劣等	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
男 平均	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
女 平均	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

男子ノ中等ニ於テハ同期性並行式及ビ凸狀式同數ニ於テ最モ多ク同期性凸狀式之レニ次ギ同期性下降式第三位ニ位ス、優等ニ於テハ同期性並行式最モ多ク同期性下降式、直線並行式凸狀式之レニ次ク、劣等ハ僅ニ二名ナルヲ以テ特ニ記ス必要ナシ一級ノ平均ニ於テハ同期性並行式最モ多ク凸狀式之ニ次ギ同期性下降式第三位ニ屬ス。

女子中等ニ於テハ同期性上昇式甚タ多數ニ存在シ最高ノ%ヲ有ス直線上昇式之ニ次ギ同期性凸狀式第三位ニ屬ス、優等ニ於テハ直線上昇式最モ多ク同期性上昇式之ニ次ク、劣等ハ一名モナシ一級ノ平均ニ於テハ同期性上昇式最モ多ク直線上昇式之レニ次ギ同期性凸狀式第三位ニ屬ス。

第十項 師範三年ニ於ケル曲線型式現出度數

曲線型式略號	直上	同上	急直上	急回上	直下	回下	急直下	急回下	直上	同上	急直上	急回上	直上	同上	急直上	急回上	直上	同上	急直上	急回上	
男 中等	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
女 中等	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
男 優等	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
女 優等	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
男 劣等	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
女 劣等	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
男 平均	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
女 平均	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

第二十三表

師範三年男子中等ニ於テハ同期性下降式最モ多ク同期性凸狀式、直線下降式、同期性並行式ハ同數ニ於テ之レニ次ク、優等ニ於テハ同期性上昇式最モ多ク直線並行式之レニ次ク、優等一名モナシ一級ノ平均ニ於テハ同期性下降式最モ多ク同期性上昇式之レニ次ギ直線並行式、同期性並行式、同期性凸狀式第三位ニ位ス。

女子ニ於テハ中等ハ同期性上昇式最モ多ク其ノ數甚タ多シ同期性並行式同期性凸狀式之ニ次ク、優等ハ人數少ナキモ同期性急凸狀式最モ多シ一級ノ平均ハ同期性上昇式最モ多ク同期性凸狀式之レニ次ギ同期性並行式第三位ニ屬ス。

第十項 師範四年ニ於ケル曲線型式現出度數

第二十四表

曲線型式略號	直上	同上	急直上	急回上	直下	回下	急直下	急回下	直上	同上	急直上	急回上	直上	同上	急直上	急回上	直上	同上	急直上	急回上	
男 中等	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
女 中等	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
男 優等	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
女 優等	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
男 平均	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
女 平均	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

モ多ク回期性凸状式之ニ次キ回期性下降式第三位ニ属ス。
女子中等ハ回期性凸状式最モ多ク回期性下降式之レニ次キ回
期性上昇式、回期性凹状式、回期性並行式第三位ニ位ス、優
等ハ數少ナキヲ以テ略ス級ノ平均ニ於テハ回期性凸状式最モ
多ク回期性上昇式之レニ次キ回期性下降式第三位ニ位ス。

第拾貳項 第五章總括

此ノ章ヲ總括スルニ當リ先ヅ各級ノ男女及ヒ優中劣ノ成績ニ
ヨリ區別シ次テ一級ノ平均ヲ舉ケ左ニ最モ多數ニ現出スル曲
線型式及ヒ第二位ニ多數ニ現出スル曲線型式ヲ舉ケントス。

第二拾五表

最多數ニ現出スル曲線型式

直下	回下	金直下	金回下	直並	回並	凸	凹	回凹	金回凹	金凸	金回凸	高回凸	凹	回凹	金回凹	金凸	金回凸	低回凸

男子中等ニ於テハ回期性凸状式最モ多ク回期性並行式之レニ
次ク、優等ニ於テハ回期性並行式最モ多ク回期性下降式之レ
ニ次ク、劣等ハ一名モナシ級ノ平均ニ於テハ回期性並行式最

直上	回上	金回上	金凸	金回凸	高回凸	凹	回凹	金回凹	金凸	金回凸	低回凸

第二位ニ多數ニ現出スル曲線型式

直上	回上	金回上	金凸	金回凸	高回凸	凹	回凹	金回凹	金凸	金回凸	低回凸

直上	回上	金回上	金凸	金回凸	高回凸	凹	回凹	金回凹	金凸	金回凸	低回凸

師範男	同並	100	同下	100	同凸	100
師範女	同下	100	同並	100	同凸	100

此ノ表ヲ見ルニ先ツ最モ多數ニ現出スル曲線型式ニ就テ述ヘンニ尋常二年三年ハ總テ三拾分實驗ナルヲ以テ多少疲勞ヲ起サ、ル即チ實驗時間ノ不足ヲ感スルノ觀アリ、中等ハ悉ク少シモ疲勞ヲ認メスシテ直線上昇式又ハ回期性上昇式ナリ、優等ハ尋常三年ニ於テ凹狀式ヲ認ムルヲ以テ之又未タ疲勞ヲ起スノ境ニ至ラス然ルニ劣等ハ回期性下降式、直線下降式稀ニ凹狀式ヲ有シ明ニ其ノ生徒ノ精神狀態カ中、優等ニ相反スルヲ認ム。尋常四年ヨリ六年ニ至ル迄ハ四拾五分實驗ナルモ中等ニ於テハ回期性上昇式最モ多ク尋常六年ニ於テ男子獨リ凸狀式ヲ有ス(既ニ疲勞ヲ認ム)高等一、二年ニ於テハ男女各種ノ型式ヲ有シ特ニ配スヘキ事ナシ、師範ノ男子ハ回期性凸狀式、回期性並行式ヲ主トシ女子ハ之レニ反シテ多數ハ回期性上昇式ヲ有シ六拾分乃至六拾五分ノ實驗ニ於テハ疲勞ヲ起サ、ルモノ多シ。

優等及ヒ劣等ハ表ニアルヲ以テ且ツ其ノ實驗人數ハ中等ニ及ハサル事遠キカ故ニ之レヲ略ス、但劣等ハ前ニ述ヘタルカ如ク優、中ト異リ回期性下降式、回期性並行式、直線下降式、凸狀式、回期性凸狀式、凹狀式ヲ有スル事殊ニ下級ノ小學ニ於テ大ク見ル處ナリ。

次ニ優中劣ノ平均ヲ見ルニ尋常二、三年ハ直線上昇式又ハ回期性上昇式ヲ以テ充タサレ尋常四、五年ハ回期性上昇式最モ多ク尋常六年ヨリ高等二年迄ハ男子ハ凸狀式多ク女子ハ回期

同凸	男	100	同下	100	同並	100
同凸	女	100	同下	100	同並	100

第二位ニ多數ニ現出スル曲線型式

直上	男	100	直上	女	100
直上	女	100	直上	男	100
同下	男	100	同下	女	100
同下	女	100	同下	男	100
凹凸	男	100	凹凸	女	100
凹凸	女	100	凹凸	男	100
同並	男	100	同並	女	100
同並	女	100	同並	男	100
同凸	男	100	同凸	女	100
同凸	女	100	同凸	男	100

優等ニ於テハ各種ノ並行式最モ多數ヲ占メ男女殆ト同數ニ存在ス次ニ多數ニ現出スルモノハ各種ノ凸狀式ニシテ男女共殆ト同數ニ存在シ第三位ニ現出スル型式ハ回期性上昇式ニシテ女子最モ多シ。

劣等ニ於テハ最モ多ク表ハル、種類ハ諸種ノ凸狀式ニシテ女子多數ヲ占メ第二位ニ多キハ回期性下降式ニシテ第三位ニ多キハ回期性上昇式ナリ。

今優、中、劣ノ平均ヲ見ルニ回期性上昇式最モ多數ニシテ女

性上昇式及ヒ直線上昇式比較的多シ、師範ノ女子ハ殆ト回期性上昇式ニシテ四年女子獨リ回期性凸狀式ナリ、男子ニ於テハ師範一年ハ凸狀式ニシテ其ノ他ハ回期性並行式又ハ回期性下降式最モ多數ヲ占ム。

今各年齢即チ級ニ關係セスシテ只各級ヲ通ジテ如何ナル型式カ優、中、劣ノ男女ニ於テ表ル、カラ見ンカ爲メニ第二拾五表ヨリ左ノ如キ各種類ニ就キ其ノ百分數ヲ加ヘテ各種類ヲ比較スルニ先ツ中等ニテハ最モ多數ニ現出スル型式ハ回期性上昇式ニシテ女子其ノ多數ヲ占ム之レニ次デ凸狀式ノ各種類ハ第二位ニ多數ニ現出スルモノニシテ男子多數ヲ占ム第三位ニ現出スル型式ハ回期性下降式ニシテ女子少シク男子ヨリモ多シ、次ニ直線上昇式ハ第四位ニ屬シ凹狀式ノ各種類ハ女子ノミニ存在シ最モ小數ニ表ル。

第二拾六表

最多數ニ現出スル曲線型式

直上	男	100	直上	女	100
直上	女	100	直上	男	100
同下	男	100	同下	女	100
同下	女	100	同下	男	100
凹凸	男	100	凹凸	女	100
凹凸	女	100	凹凸	男	100
同並	男	100	同並	女	100
同並	女	100	同並	男	100
同凸	男	100	同凸	女	100
同凸	女	100	同凸	男	100

子ハ男子ノ三倍以上ニ昇リ之レニ次クモノハ諸種ノ凸狀式ナリ、此ノ場合ハ男子女子ヨリモ約三倍多シ、第三位ニ表ル、モノハ回期性下降式ニシテ女子非常ニ多ク之又男子ノ三倍ニ相當シ第四位ニ多キハ並行式ニシテ只男子ノミニ存在ス、第五位ニ位スルモノハ直線上昇式ニシテ女子ノ方多シ、其ノ他凹狀式回期性急上昇式等ハ僅ニ存在ス。

次ニ第二位ニ多數ニ存在スル曲線型式ニ就テ述ヘンニ各級又ハ實驗時間ノ相違ニ依レル各級ノ差別ハ其ノ現出スル型式カ餘リニ多數ナルカ故ニ此處ニ特ニ記スル事困難ナルヲ以テ各年齢及ヒ級ニ於ケル記載ハ省略シ只各級ヲ通シテ如何程多キカラ概述セントス、但シ最多數ニ現出スル曲線型式ノ際ニ述ヘタル如ク詳述スル事ヲ避ケントス。

先ツ中等ニ於テ最モ多ク第二位ニ現出スル種類ハ各級ヲ通シテ二種ノ並行式ナリ、女子男子ヨリモ少シク多ク次ニ現出スル型式ハ各種ノ凸狀式ニシテ男子女子ヨリモ多シ、第三位ハ回期性下降式ニシテ女子甚タ多シ、優等ニ於テハ中等ト同シク各種ノ並行式最モ多ク男子多數ヲ占ム、次ニ多ク現ル、型式ハ回期性上昇式ニシテ男女共略同數ナリ、第三位ニ位スルモノハ各種ノ凸狀式ニシテ女子男子ヨリモ少シク多シ、劣等ニ於テハ直線下降式、直線上昇式、回期性下降式等ノ型式ヲ欠キ回期性上昇式最モ多ク女子多數ニシテ男子ノ三倍以上ニ當リ各種並行式各種ノ凸狀式ハ近似セル數ヲ以テ存在シ男女モ亦極メテ近似スル數ヲ有ス。

優、中、劣ノ平均ニ於テハ第二位ニ多數ニ現出スル曲線型式

(同期性凹狀式ニ就キテ)
 同期性凹狀式ハ現出度數第四位ニ位シ男子尋常六年ハ一ツモ存在セザレトモ總体ニ於テ決シテ稀ニ現出スル型式ニ非ス、先ツ尋常二年ヨリ高等一年迄ハ尋常六年ヲ除キ漸次其ノ數ヲ増シ高等一年最モ多數ニ存在シ高等二年及ヒ師範一年ハ余リ小數ナラザレトモ師範二、三、四年ハ甚タ小數ニ減退ス、女子ニ於テハ尋常五六年ハ甚タ高ク高等一年ハ其ノ數男子ト反對ニ低減シ師範二年最モ低ク三、四殊ニ四年ハ最高ヲ示ス平均ハ男七・六%、女七・五%ナリ。

(凸狀式ニ就キテ)
 男子ニ於テハ高等一年ニ至ク存在ヲ認メザレトモ全体ニ涉リ比較的多ク存在シ殊ニ師範ニ於テ小學ヨリモ多ク存在シ師範二年ニ最多數ニ存在ス、女子ハ尋常四年師範三、四年ニ於テ一ツモ存在セザレトモ其ノ他ハ比較的多ク存在シ高等二年ニ於テ最モ大ナル數ヲ表ス且ツ小學ニ於ケル數ハ漸次年齡ヲ増スニ從ヒ多數トナル傾向アリ平均數ハ男子七・二%、女子六・二%ナリ。

(直線上昇式ニ就キテ)
 第六位ニ多數ニ存在スルハ直線上昇式ナレドモ男女各級ヲ通シテ存在スル事ナク只点々トシテ現レ若シ存在スルハ頗ル多數ナル現出度數ヲ有スルモノナリ、男子ニ於テハ尋常二、三年ニ於テ甚タ多ク現レ四五年甚タ少ナク高等一年ハ又頗ル多數ニ現出シ高等二年、師範一年ヲ除キ師範二、三、四年ニ於テハ小數ニ現出ス、女子ハ男子ヨリモ甚タ稀ニ現出シ尋常二、三、四年ニ於テ小數ニ現出シ五、六年ハ

一ツモ存在セズ高等一年ニ二十四%ニ近キ多數ヲ示シ師範一、二年ニ殊ニ二年ニ於テ頗ル多ク存在ス其ノ他ニハ存在ヲ認メス全級ノ平均ハ男子七・六%、女子五・五%ナリ。

(直線並行式ニ就キテ)
 此ノ型式ト直線上昇式トハ殆ト同數ニ存在スルヲ以テ同シク第六位ニ存在スルモノト見做シテ可ナリ然レドモ直線上昇式ニ比シテ此ノ式ハ女子尋常六年ヲ除ク外ハ男女各級必ス幾分カ存在シ男子ノ如キハ尋常二、三殊ニ三年ハ最モ多數ニ現出シ夫レヨリ漸次低落シ高等一年、二年ニ於テ少シク度數ヲ増セトモ師範ニ於テハ再ヒ各級ニ於テ殆ト同數ニ多ク現出ス女子ハ男子ト同シク尋常五年迄ハ漸次其ノ數ヲ減シ高等一年、二年モ男子ト同程度ノ度數ニ昇リ夫ヨリ師範ハ級ノ進ムニ從ヒ其ノ數ヲ減ス、要スルニ男女共小學ニ於テハ極メテ相接近スル數ヲ有シ師範ニ於テハ男子女子ヨリモ甚タ多ク存在ス女子ノ最多數ハ尋常二年ナリ全級ノ平均ハ男子七・二%女子五・四%ナリ。

(直線下降式ニ就キテ)
 此ノ式ハ第七位ニ位シテ存スルモ其ノ特色トシテハ男子尋常二、三、四、五、女子二、三、四年及ヒ男子師範全体ト女子高等一、二、師範一、二年ニ存在スルノミニシテ其ノ間ノ級ハ一ツモ存在セザレトモナリ但シ男子ヨリモ女子ノ方其ノ數二分ノ一以上少ナシ其ノ平均ハ男子五・三%、女子二・五%ナリ。

高等一年ニ多數ニ存在シ師範ハ比較的多ク存在ス女子ニハ甚タ稀ニ現出スル種類ナリ平均ハ男子四・七%、女子二・五%ナリ。

其ノ他ノ各曲線型式ハ現出度數甚タ不定且ツ小數ナルヲ以テ只表ヲ舉クルノミニ止メ以上要領ヲ舉クルハ左ノ如シ

- 一、今多數ニ表ル、型式ノ順序ヲ舉クルハ第一同期性上昇式、第二同期性凸狀式、第三同期性並行式、同期性下降式、第四同期性凹狀式、第五凸狀式、第六直線上昇式、直線並行式、第七直線下降式、第八凹狀式等ノ順序ヲ以テ現出ス
- 二、男女ノ差異ニ於テハ特ニ著シキハ同期性上昇式ノ師範女子男子ヨリモ甚タ多數ナルヲ、同期性凸狀式ニ於テハ男子ヨリモ女子一般ニ少ナキヲ、同期性下降式ニ於テハ尋常六年迄ハ女子ノ方男子ヨリモ極メテ多數ナル事、同期性並行式ニ於テハ女子各級ニ之レヲ有シ男子ハ稀ニ現レ、同期性凹狀式ニ於テハ女子ハ小學ニ於テハ男子ヨリモ小數ニシテ師範ハ之レニ反スル事、直線並行式ハ師範ニ於テ男子甚タ多ク現レ女子小數ナルヲナリ
- 三、次に全体ノ平均ヲ見ルニ同期性上昇式ニ於テハ女子ハ男子ノ約二倍ニ相當シ同期性凸狀式ニ於テハ男子女子ヨリモ四分ノ一多ク同期性下降式ニ於テハ女子男子ヨリモ少シク多ク同期性凹狀式ニ於テハ男女共殆ト同數ニシテ凸狀式ニ於テハ男子女子ヨリモ少シク多ク直線並行式及ヒ直線上昇式ハ共ニ男子女子ヨリモ多ク直線下降式ト凹狀式トハ男子ノ方女子ヨリモ約二倍多シ

第二編 長期精神作業發育研究

第一章 緒論

第一編ニ於テハ主トシテ短期作業能率ニ就キテ研究シタルモノニシテ之レヲ以テ注意ノ動搖又注意持續ニ關スル研究及ヒ疲勞問題ニ關シテ述フル所アリタルモ此ノ編ニ於テハ連日作業能力ノ進歩及ヒ年齡ト比較シテ其ノ進歩カ如何ニ發育シ居ルヤヲ研究シ以テ日常學校ニ於ケル學術ノ進歩ノ資料ニ供セント欲シタリ且ツ休日カ如何ニ能率ノ増減ニ關係スルヤヲ論シ次テ又各年級即チ年齡ニ對シテ其ノ進歩ノ曲線カ如何ナル曲線型式ヲトリテ變化スルカラ研究シ續テ又其ノ曲線カ如何ナル數字の曲線ノ性質ヲ帶フルカラ追加トシテ之レニ加ヘタル但シ此ノ追加ハ第一編ニ於ケル短期能率ノ年齡ト比シタル平均曲線ノ數學的性質ヲモ併セテ論シタリ。

第二章 實驗方法

余ハ既ニ第一編ニ於テ用ヒタル「ブルドン」ノ無意味ノ綴字ヲ以テ讀字法ニ依リ毎日授業前十分宛十日間各級中成績優等、劣等共主トテテ一名多キハ數名、中等ハ小學ハ約十名師範ハ四五名ヲ實驗セルモノニシテ日曜及ヒ休日ハ無論此ノ實驗ヲ行ハス今各級ノ人數及ヒ年齡ニ關シテ明白ニセンカ爲メ左ニ表ヲ舉ク

第一表

十日ニ於テ低落ス、劣等ハ殆ト直線並行式ニ一致シ少シモ上昇スル傾向ヲ有セス。
女子ノ中等ニ於テハ同期性急上昇式ニ屬シ同期性ヲナシツ、第十日ニ於テ二千二百迄上昇ス、優等ニ於テハ中等ヨリモ尙ホ多クノ讀字數ヲ有シ純粹ナル同期性急上昇式ニ屬ス最高ハ二千四百ニ達セントス、劣等ハ男子ノ劣等ト同シク寧ロ男子ヨリ著明ニ直線並行式ナリ。

尋常五年

第六表

日	中	優	劣
第一日	1121	1121	1121
第二日	1121	1121	1121
第三日	1121	1121	1121
第四日	1121	1121	1121
第五日	1121	1121	1121
第六日	1121	1121	1121
第七日	1121	1121	1121
第八日	1121	1121	1121
第九日	1121	1121	1121
第十日	1121	1121	1121

五年ノ男子中等ニ於テハ同期性急上昇式ニシテ第十日ハ最高千

九百ノ讀字數ニ達シ第九日目ハ少シク低落スルモ全体ハ甚タ規則正シク常ニ上昇スルモノナリ、優等ニ於テハ始メノ五日ハ中等ヨリモ讀字數少ナキモ第七日目ニ至リ急ニ上昇シ中等ノ曲線ヲ越エテ多クノ能率ヲ出セリ之ヲ同期性急上昇式ナリ、劣等ニ於テハ第一、二日カ少シク高キヲ以テ上昇式ニ非スシテ同期性凹狀式ノ形ヲ有スルモノツノ同期性急上昇式ト見做シテ可ナラン。

尋常六年

第七表

日	中	優	劣
第一日	1121	1121	1121
第二日	1121	1121	1121
第三日	1121	1121	1121
第四日	1121	1121	1121
第五日	1121	1121	1121
第六日	1121	1121	1121

女子中等ニ於テハ不規則ナル同期性急上昇式ニシテ第四日迄ハ盛ニ上昇スルモ其ノ後ノ能率増加ハ著シカラス但シ漸々其ノ數ヲ増スハ明ラカナリ、優等ハ高原凸ノ形ナリ然シ其ノ高原凸ハ漸々上昇スル傾向ヲ有シ第十日目ニ於テハ少シク低落ス最高ハ第八日目ニシテ二千七百十分間ニ讀メリ、劣等ハ中等ヨリモ甚タ讀字數少ナク其ノ形狀ハ同期性急上昇式ナリ第十日目ハ千七百以上ニ達セリ。

男子中等ハ不規則ナル同期性急上昇式ニシテ第四日目ニ於テ第一ノ高點ニ達シ夫レヨリ一時低落シテ二日ノ休日アルニ拘ラヌ二千字ニ達セントス、優等ハ第四日迄ハ急ニ上昇シ第六日ヨリ十日迄ハ殆ト少シモ増減ナク並行ニ走ル曲線ヲ生シ之レ又高原凸狀式ノ形狀ヲ有シ中等ヨリモ遙ニ全体ヲ通シテ能率大ナリ、劣等ハ中等ヨリモ全体ニ能率少ナク同期性凸狀式ノ如キ不規則ナル曲線ヲ生シ第八日ニ於テ最高千五百以上ニ達ス。

高等一年

第八表

日	中	優	劣
第一日	1121	1121	1121
第二日	1121	1121	1121
第三日	1121	1121	1121
第四日	1121	1121	1121
第五日	1121	1121	1121
第六日	1121	1121	1121
第七日	1121	1121	1121
第八日	1121	1121	1121
第九日	1121	1121	1121
第十日	1121	1121	1121

女子ニ於テハ中等ハ不規則ナル同期性急上昇式ヲ表シ最高ハ千八百以上ニシテ第十日目ニアリ、優等ハ比較的規則正シキ同期性急上昇式ニシテ其ノ最高所ハ第八日目ニアリ此ノ曲線ハ見方ニヨリテ一種ノ同期性凸狀式トモ見ラルヘキモノナリ中等ヨリモ二三ノ點ヲ除クノ外ハ皆讀字數多シ、劣等ハ大体ニ於テ優等ノ曲線ト近似ス、然シ讀字數ハ各日悉ク中等ヨリモ低シ。

男子中等ハ甚タ不規則ナル同期性並行式ニシテ能率ノ發達殆ト見ルヘキモノナシ如何トナレハ第二日ハ相應ノ高サニ達スルモ其ノ後ハ低落シ次テ同期性並行式ヲ表スカ故ナリ。優等ニ於テハ只一人ナルモ中等ヨリ殆ト總テ各日ニ涉リ率能低ク其ノ曲線ノ形狀モ中等曲線ニヨク近似ス。劣等ハ優等ヨリ尙ホ少ナキ能率ヲ有シ第二日目ニ多少大ナル讀字數ヲ有スレトモ第四日ヨリ六日迄ハ甚タ低落シ九百字代ニ落チ夫レヨリ後ハ再ヒ上昇スル傾向アリ中等ノ男子ハ人數極メテ少ナク僅ニ四名ナリ。

事展々アリ其ノ曲線形状ハ同期性急凸狀式ニ屬スレトモ第十日カ再ヒ甚シク上昇スル所ヲ見レハ或ハ同期性急上昇式ナラシカ、優等ハ讀字數ニ於テハ殆ト中等ト同様ニシテ其ノ形状ハ正シキ同期性急凸狀式ヲ有シ第六日目ハ同シク二千五百字ニ達スル異常ナル上昇ヲ見ル、中等十四人ニ對シテ優等只一名ナルヲ以テ餘リ優等ハ正確ナルモノト見做スヘカラス、劣等ハ休日モ入レテ六日間休校シタルヲ以テ能率實驗ノ成績ニ達セズ。

高等二年

第九表

日	中	優	劣
第一日	1800	1800	1800
第二日	1800	1800	1800
第三日	1800	1800	1800
第四日	1800	1800	1800
第五日	1800	1800	1800
第六日	1800	1800	1800
第七日	1800	1800	1800
第八日	1800	1800	1800
第九日	1800	1800	1800
第十日	1800	1800	1800

男子中等ハ人數僅ニ四人ノ平均ニ過キサルヲ以テ之又正シキ成績ト見做ス事能ハス全体ノ形状ハ同期性急上昇式ナリ第十日ハ千七百以上ニ達シ之レニ次テ第七日目ハ千七百ニ達ス、優等ハ只一人ニシテ極メテ不規則ナル一種、同期性ヲ有スル形状ヲ有シ第一日ヨリ五日迄ハ漸次低落シ七日ニ至リ最高點ニ達シ千七百以上ナルカ故ニ強テ名稱ヲ附スレハ不規則ナル同期性凸狀式ナラン、劣等ハ只一人ニシテ同期性急上昇式ニ屬シ且ツ優中ヨリモ全体ニ涉リ能率低シ。

師範一年

第十表

日	中	優	劣
第一日	1800	1800	1800
第二日	1800	1800	1800
第三日	1800	1800	1800
第四日	1800	1800	1800
第五日	1800	1800	1800
第六日	1800	1800	1800
第七日	1800	1800	1800

形状ヲ同シク五百五十乃至三百字ノ讀字數ノ差ヲ以テ甚タヨク並行シテ上下ス第四日迄ハ甚シク上昇シ第六日又上昇シ第十日ニ至リテハ最高ク三千二百以上ノ(十分間)讀字數ヲ出スニ至ル。劣等モ亦第七日迄ハ中等曲線ト殆ト同形ニ走り能率ハ優ト中トノ間ニ位シ居ルモ八日以後ハ優中ト全ク離レテ能率ヲ減シ第十日目ハ少シク又上昇スル傾向ヲ有スレトモ全体ハ同期性急凸狀式ニ屬ス之優、中ト異ナル所ナリ其ノ最高點ハ二千九百ニシテ第六日目ニアリ。

第十一表

日	中	優	劣
第一日	1800	1800	1800
第二日	1800	1800	1800
第三日	1800	1800	1800
第四日	1800	1800	1800
第五日	1800	1800	1800
第六日	1800	1800	1800
第七日	1800	1800	1800
第八日	1800	1800	1800
第九日	1800	1800	1800
第十日	1800	1800	1800

師範一年男子中等ハ直線ニ近キ同期性急上昇式ニシテ甚タ規則正シキ曲線ノ形状ヲ有シ第十日目ハ讀字數二千以上ニ達シ第一日ト比較スレハ三百字以上ノ増加ヲ見ル、優等生ハ二名ニシテ同期性急上昇式ナリ最高ハ第十日目ニシテ二千三百字ニ昇リ第一日トハ六百字ノ増加ヲ見ル、劣等ハ只一名ナルヲ以テ明ラカナラサレトモ之又同期性急上昇式ニシテ最終ノ第九日目ハ中等ヨリモ多ク二百字ニ達ス但シ第一日ト二日間ニ欠席セルヲ以テ實驗日數ハ九日トナレリ。

女子ノ師範一年ハ中等四名、優等三名、劣等三名ニシテ今迄ノ優、中、劣生徒ノ取方ト全ク異ルヲ以テ其ノ成績モ亦多少赴テ異ニス然レトモ優、中、劣ヲ比較スルニ稍確實ニシテ明ラカニ其ノ進歩ノ度合能率ノ多少ヲ見ルニタル先ツ中等ニ於テハ其ノ曲線ノ性質ヲ見ルニ同期性急上昇式ニシテ第四日迄ハ非常ニ進歩シ第五日少シク下リ第六日再ヒ非常ニ上昇シ十分間ニ二千九百字ヲ讀ミ第九日ニ至リテ少シク又上昇シ第十日ハ九日ヨリモ少シク低シ、優等ニ於テハ中等ノ曲線ト全ク

男子中等ハ一年ト同シク凹凸少ナキ回期性上昇式ニシテ(實驗人數九人)第十日目ハ二千五百字ニ達シ第一日トノ差ハ約三百五十字ナリ、優等二名ノ平均ハ中等ヨリモ上昇ノ角度多ク即チ能率増進ノ度明ラカナリ第一日ハ千七百字ニ近キ數ナレトモ第十日ハ二千二百字ニ昇ル、劣等ハ只一名ナルカ故ニ其ノ成績極メテ不規則ニシテ其ノ讀字數ハ優等ヨリ尙ホ甚タ多ク且ツ其ノ曲線形モ亦凸狀式ニシテ而モ不規則ナル形ヲ有ス。

女子ニ於テハ一般ニ男子ヨリモ甚シク讀字數多ク殆ト一千字以上モ増加シ居レリ其ノ原因ハ全ク不明ナルモ女子ニ於テハ或ハ無意味ノ綴字ヲ讀ム能力ニ富居ルモノナランカ、此ノ級ニ於テハ中等六人ニシテ其ノ曲線ハ第四日迄ハ甚シキ急上昇式ニシテ其ノ他ハ六日、九日、十日ノ頂點ヲ有スル回期性上昇式ナリ、優等ノ曲線(五人平均)ハ前曲線ト殆ト相一致シテ走リ其ノ高サモ亦決シテ甲乙ナク從テ其ノ形狀モ亦第四日迄ハ非常ナル急上昇式ニシテ夫レヨリ以後ハ徐々タル回期性上昇式ナリ只前述中等線ト優等トノ差ハ第八日目以後ニ於テアルノミ

師範三年

第十二表

第一日	中	優	劣	第三日	中	優	劣
第二日	中	優	劣	第四日	中	優	劣

席セルヲ以テ最終ハ第九日トナリ第一日ノ千七百弱ヨリ漸々増進シ第九日目ハ千八百強トナル能率増進ノ量ハ即チ第九日ト第一日ノ差ニシテ僅ニ百五十字ヲ算ス。

女子師範三年中等ハ回期性急上昇式ナレトモ少シク異常ノ性質ヲ有シ第一日ヨリ三日迄ハ極メテ急激ナル上昇ヲナシ第八日迄ハ能率増加ハ一時停止シ九日十日ハ又非常ニ急激ノ上昇ヲナス其ノ第一日ハ二千二百字強ニシテ第十日ハ三千九百字弱ナリ故ニ其ノ差ハ千六百強ノ増進ヲ見ル即チ最大讀字ニ於テ男子ハ二千字強ニ對シ女子ハ三千九百字弱ノ如キ大ナル能率ノ差ヲ有ス、優等ニ於テハ中等ノ曲線ニ甚タヨク近似シ居ルモ只三百乃至五百ノ隔リヲ以テ上昇スルノミ但シ第六日ニ於テ中等ノ曲線カ上昇セサルヲ以テ其ノ差ハ甚シキ懸隔ヲ有ス曲線ノ性質ハ回期性急上昇式ニシテ第一日ノ二千五百字弱ヨリ第十日ノ四千二百字強ニ昇リ其ノ差ハ實ニ千七百五十字ニ昇ル此ノ女子師範三年ハ男女二十三級中稀ニ見ル處ノ能率ヲ有ス、劣等ハ只一人ナルモ其ノ曲線ハ中等曲線ト殆ト同様ナル型式ヲ有シ殆ト二千二百ノ差ヲ以テ其ノ下ニ並行シテ走ル第一日ハ千九百字ニシテ第十日ハ三千七百ニシテ達其ノ差ハ一千八百字ナリ。

第十三表

第一日	中	優	劣	第二日	中	優	劣
-----	---	---	---	-----	---	---	---

第五日	中	優	劣	第六日	中	優	劣
第六日	中	優	劣	第七日	中	優	劣
第七日	中	優	劣	第八日	中	優	劣
第八日	中	優	劣	第九日	中	優	劣
第九日	中	優	劣	第十日	中	優	劣

男子ノ中等ハ純粹ナル回期性上昇式ニシテ且ツ既ニ十日間ノ實驗ヲ以テ一種ノ對數曲線ニ類スル形ヲ表セリ即チ三日附近迄ハ曲線ハ急ニ上昇シ六日頃迄ハ中等度ニ上昇シテ夫レヨリ以後ハ上昇スル極メテ緩慢ニシテ其ノ最高ハ二千字強ニシテ第一日ハ千六百字強ナリ即チ第十日ト一日ノ差ハ約四百字ニシテ隔日毎ニ必ス山ト谷ヲナス所ノ極メテ理想的ノ曲線形ヲ有ス、優等ハ中等ノ曲線ニ甚タヨク近似シ只上昇スル傾斜角カ中等ヨリモ大ナルコナリ即チ能率増加カ大ナル事ヲ意味スルモノナリ且ツ全般ニ涉リ中等ヨリモ二千三百字多シ第一日ハ一千七百強ニシテ第十日ハ二千三百字強ナルヲ以テ其ノ差ハ六百字以上ノ差ヲ有シ中等ノ差ヨリモ大ナリ、劣等ハ只一人ナルモ理想的ノ線ヲ表シ之又回期性上昇式ニシテ理想ノ對數曲線ニ近似ス然レモ中等ヨリハ一般ニ讀字數少ナクシテ百乃至二百字少ナク中等ヨリ以下ニアリ第一日、二日間ニ欠

第三日	中	優	劣	第六日	中	優	劣
第四日	中	優	劣	第七日	中	優	劣
第五日	中	優	劣	第八日	中	優	劣
第六日	中	優	劣	第九日	中	優	劣
第七日	中	優	劣	第十日	中	優	劣

女子師範四年ニ於テハ各實驗者ノ數カ各々四人宛ナルヲ以テ其ノ成績モ殆ト一致シ優、中、劣ノ三本ノ曲線カ殆ト皆相一致シテ上下スルヲ見ル第九日及ヒ十日ニ於テ少シク異ル點アリ即チ劣等ハ第八日以後ハ上昇セシテ十日ニ至テ少シク減スル外ハ優、中ハ概シテ十日目ニ一致スルヲ見ル全体ノ曲線ノ形ハ回期性急上昇式ニ屬シ四日迄ハ甚シク上昇スルモ中、優ハ共ニ九日迄ハ少シク徐々トシテ上昇シ十日目ニ於テ兩者殆ト同所ニ昇ル。

第二項 各級ノ平均作業能率

先ツ一ツノ級ニ於ケル優、中、劣ヲ悉ク平均シ即チ一級ノ男女ニ於ケル平均ヲ左ニ擧ケントス。

尋常一年

第十四表

第一日	男	女	第五日	男	女
第二日	男	女	第六日	男	女
第三日	男	女	第七日	男	女
第四日	男	女			

第八日 休 休
第九日 休 休
第十日 休 休
其ノ平均曲線ハ男子ニ於テハ回期性凸狀式ニ屬シ其ノ頂點ハ第五日ニシテ千六百九十九ニ達シ其ノ後ノ日ニ於テハ漸々減シテ第十日ハ九百六十三ニ至ル。
女子ハ同ク回期性凸狀式ニシテ第六日自カ最高ニ達シ(一千十三)五日及ヒ六日ノ間ニ休日アルモ少シモ影響セズシテ頂點ニ達セリ第十日自カ八百二十ナリ總体ニ於テ男子女子ヨリモ勝リタル能率ヲ有ス。

尋常二年 第十五表

第一日	男 二五二	女 二四二	第七日	男 二五二	女 二五二
第二日	男 二五二	女 二四二	第八日	男 二五二	女 二五二
第三日	男 二五二	女 二四二	第九日	男 二五二	女 二五二
第四日	男 二五二	女 二四二	第十日	男 二五二	女 二五二
第五日	男 二五二	女 二四二	休	男 二五二	女 二五二
第六日	男 二五二	女 二四二	休	男 二五二	女 二五二

男子ハ回期性上昇式ニシテ第三日迄ハ急激ニ増進シ夫レヨリ後ハ第七日ノ低落ヲ除クノ外ハ徐々トシテ上昇スルモノナリ第一日ハ四百四十六ニシテ第十日ハ一千二百四ナリ。
女子ニ於テハ之又三日迄ハ急ニ増進シ其ノ後ハ男子ヨリモ尚ホ平坦ニ徐々トシテ上昇ス第一日ハ男子ト同ク四百四十四ニ始マリ第十日自カ九百七十九ニ終ル總体ニ於テ女子ヨリモ男

第十七表

第一日	男 二五二	女 二四二	第七日	男 二五二	女 二五二
第二日	男 二五二	女 二四二	第八日	男 二五二	女 二五二
第三日	男 二五二	女 二四二	第九日	男 二五二	女 二五二
第四日	男 二五二	女 二四二	第十日	男 二五二	女 二五二
第五日	男 二五二	女 二四二	休	男 二五二	女 二五二
第六日	男 二五二	女 二四二	休	男 二五二	女 二五二

男子ハ回期性凸狀式ニシテ若シ十日以上ノ實驗ヲナス場合ハ尚ホ上昇シテ回期性上昇式ニナラントスル傾向アルモ十日間ノ實驗ニ於テハ回期性凸狀式ナリ其ノ頂點ハ第七日ニ位シ一千六百十八ナリ。
女子ハ明ラカニ回期性上昇式ニシテ其ノ第十日ハ二千二百ニ達シ且ツ男子ヨリ能率ハ一般ニ多シ。

第十八表

第一日	男 二五二	女 二四二	第七日	男 二五二	女 二五二
第二日	男 二五二	女 二四二	第八日	男 二五二	女 二五二
第三日	男 二五二	女 二四二	第九日	男 二五二	女 二五二
第四日	男 二五二	女 二四二	第十日	男 二五二	女 二五二
第五日	男 二五二	女 二四二	休	男 二五二	女 二五二
第六日	男 二五二	女 二四二	休	男 二五二	女 二五二

男子ハ回期性上昇式ニシテ第一日ハ千四百四十二ナルニ第十日

子能率多シ。
尋常三年

第十六表

第一日	男 二五二	女 二四二	第七日	男 二五二	女 二五二
第二日	男 二五二	女 二四二	第八日	男 二五二	女 二五二
第三日	男 二五二	女 二四二	第九日	男 二五二	女 二五二
第四日	男 二五二	女 二四二	第十日	男 二五二	女 二五二
第五日	男 二五二	女 二四二	休	男 二五二	女 二五二
第六日	男 二五二	女 二四二	休	男 二五二	女 二五二

男子ハ回期性上昇式ニシテ其ノ上昇ノ度合ハ始メヨリ極メテ徐々トシテ進ムモノナリ第六日ハ前日ニ於テ休日アルニ拘ラヌ千三百六十字ニ達シ第十日ハ之レヨリ少シク低キモ千三百十四ニ達ス且ツ尋常一、二年ヨリモ總体ニ於テ二三十字多キ能率ヲ有ス。
女子ノ曲線ハ回期性凸狀式ニ類スルモ一種ノ回期性上昇式ニシテ只第六日カ餘リ多クノ數ヲ有スルカ故ニ一見回期性凸狀式ノ如ク見ユ即チ第一日ハ一千三十一、第六日自カ千五百七十四ニ達シ第十日ハ一千四百六十八ニ達ス第五、六日ノ間ニ休日アルモ少シモ影響セズシテ却テ能率ヲ増進セリ第九日ト第十日ノ間ノ二日間ノ休日モ亦第十日ノ増進ヲ見ルカ如ク前日ノ休日ハ却テ翌日ノ能率ヲ増スノ觀アリ此ノ級ヨリ前級ノ反對ニ女子ノ方一般ニ能率大ナリ。

尋常四年

ハ千八百四十八ナリ。
女子ハ同ク回期性上昇式ニシテ千七百七十ヲ以テ第一日トシ第十日ハ千八百三十八ニ至ル之又女子ノ方男子ヨリモ少シク能率多シ。
尋常六年

第十九表

第一日	男 二五二	女 二四二	第七日	男 二五二	女 二五二
第二日	男 二五二	女 二四二	第八日	男 二五二	女 二五二
第三日	男 二五二	女 二四二	第九日	男 二五二	女 二五二
第四日	男 二五二	女 二四二	第十日	男 二五二	女 二五二
第五日	男 二五二	女 二四二	休	男 二五二	女 二五二
第六日	男 二五二	女 二四二	休	男 二五二	女 二五二

男子ハ回期性上昇式ニシテ第四日迄ハ急ニ上昇シ五日ヨリ九日迄ハ多少低落又ハ平坦ニシテ第十日ニ於テハ甚シク急ニ上昇シ千九百二十七ニ至ル但シ第一日ハ一千二百六十二第四日ノ上昇ハ千七百八十二ナリ。
女子ハ同ク回期性上昇式ニシテ第二日カ非常ニ高ク千七百七十四ニ達スルモ夫レヨリ以後ハ徐々トシテ上昇ス第一日ハ千三百三十三ニシテ第十日ハ千八百七ナリ男女其能率ニ於テ大差ナシ。

高等一年

第二十表

第一日	男	二二五	女	二二二	第七日	男	二二九	女	二〇八
第二日	男	二二九	女	二二六	第八日	男	二三六	女	二一五
第三日	男	二三三	女	二三〇	第九日	男	二四三	女	二二二
第四日	男	二三七	女	二三四	第十日	男	二五〇	女	二三九
第五日	男	二四一	女	二三八					
第六日	男	二四五	女	二四二					

男子ハ同期性並行式ニシテ通常尋常ヨリ直ニ中等學校ニ移ルモノ多ク高等小學ニ残り居ル所ノ男生徒ハ其ノ數極メテ少ナク且ツ學業能力ハ多少劣等ト見做シ得ルモノニシテ今回ノ調査ニ於テモ儘ニ其ノ傾アリ總体ニ於テ其ノ能率ハ大約尋常四年級ニ略相當シ且ツ曲線ハ極メテ不規則ニシテ第三日カ千四百四十一ニ達シ第十日目ハ千四百三十二ニ至ル其ノ他第五日ニ千九百九十五ニ至ル低劣アリ。

女子ニ於テハ男子ト異リ小學ヲ以テ終ルモノ及ヒ尙ホ進ンテ師範學校ニ入學ヒントスルモノアルカ爲メニ其ノ人數及ヒ修業能力ハ優ニ男子ヨリモ多ク從テ其ノ結果ハ此ノ曲線ニ明ラカニ表レ居ルモノナリ且ツ此ノ曲線ハ同期性凸狀式ニシテ第四日ハ最高點ニ達シ二千三百九十二ニ當リ第十日目ハ之レヨリ餘程低ク二千七十二ナリ第一日ヨリ四日迄ハ急激ニ増進シ他ハ斯ノ如ク不整形ナリ察スルニ此ノ年齡ハ月經初潮期ニ近付クヲ以テ此ノ不整形ヲ見ルモノナラン。

高等二年

第二十一表

第一日	男	一六五	女	一六二	第七日	男	一六九	女	一五七
第二日	男	一七〇	女	一六七	第八日	男	一七六	女	一六四
第三日	男	一七五	女	一七二	第九日	男	一八三	女	一七一
第四日	男	一八〇	女	一七七	第十日	男	一八八	女	一七六
第五日	男	一八五	女	一八二					
第六日	男	一九〇	女	一八七					

男子ハ之又極メテ不規則ナル能力増進ノ状態ヲ有スルモ尙ホ同期性上昇式ニ屬ス第五日目ハ第一日ノ千五百三字ニ對シテ千三百八十六ニ下リ夫レヨリ漸々上昇シ第十日目ハ千六百九十五ニ至ル此ノ高等二年能率平均ハ大約尋常五年ト六年トノ間ニアリ。

師範一年

第二十二表

第一日	男	一六五	女	一六二	第七日	男	一六九	女	一五七
第二日	男	一七〇	女	一六七	第八日	男	一七六	女	一六四
第三日	男	一七五	女	一七二	第九日	男	一八三	女	一七一
第四日	男	一八〇	女	一七七	第十日	男	一八八	女	一七六

男子ハ直線ニ似タル同期性上昇式ニシテ第一日ハ千六百五十九第十日ハ二千七十八ナリ此ノ差ヨリ見レハ女子ノ如ク急激ノ上昇ヲナスシテ極メテ徐々タル増進ヲナス。

女子ハ同期性上昇式ニシテ第六日目ハ殊ニ多數ニ讀字シ最高ノ十日ニ僅ノ差ヲ以テ及ハントスル傾向アリ第一日ハ千七百九十八ニシテ第十日ハ二千九百四十五ナルヲ以テ先ツ同期性急上昇式ト見做シテヨカラン師範ノ四個級中此ノ一年ハ能率ニ於テ最モ低キモノナリ。

師範二年

第二十三表

第一日	男	一六五	女	一六二	第七日	男	一六九	女	一五七
第二日	男	一七〇	女	一六七	第八日	男	一七六	女	一六四
第三日	男	一七五	女	一七二	第九日	男	一八三	女	一七一
第四日	男	一八〇	女	一七七	第十日	男	一八八	女	一七六

男子ハ大体ニ於テ始メノ五日間ハ一年ヨリモ僅二三ノ差ヲ以テ上昇スレトモ其後ハ師範一年ヨリモ二三乃至五六ノ差ヲ以テ其ノ線ノ下ニアリ但シ十日ハ再ヒ上昇ス此ノ曲線ハ同ク直線ニ近キ平坦ナル同期性上昇式ニシテ第一日ハ千六百七十九、第十日ハ二千九百四十五ナリ即チ決シテ急ナル上昇式ニ非ス。

女子ニ於テハ同一年ト殆ト規則正シク並行シテ同期性上昇式ヲナシ第六日目ニ於テ三千二百十九ニ達スル最頂點アルモ大体ノ形ハ凸狀式ニ非スシテ同期性上昇式ナリ、第一日ハ千九百四十五ニシテ第六日目ヲ除キ最終第十日ハ三千八百八十一ニ達ス。

師範三年

第二十四表

第一日	男	一六五	女	一六二	第七日	男	一六九	女	一五七
第二日	男	一七〇	女	一六七	第八日	男	一七六	女	一六四
第三日	男	一七五	女	一七二	第九日	男	一八三	女	一七一
第四日	男	一八〇	女	一七七	第十日	男	一八八	女	一七六

男子ハ前述ノ如ク極ノ平坦ナル直線ニ近キ回周期性上昇式ニシテ第六日目ト八日目ニ僅ノ高マリアリ第一日ハ千六百五十三字ニシテ第十日ハ二千六十五ニ達ス。

師範四年(女子ノミ)

第二十五表

Table with 7 columns: Day (第一日 to 第七日), Gender (女子), and Reading Rate (e.g., 205, 215, 225).

師範四年モ亦三年ニ及ハサントモ全般ニ於テ師範二年ノ上ニアリ、且ツ規則正シキ師範三年ニ殆ト並行スル回周期性急上昇式ヲ有シ、第一日ハ二千十五、第十日ハ三千六百四十八字ニ達ス。

以上女子師範ノ四本ノ曲線ハ其ノ形状ニ於テ同ク回周期性急上昇式ニシテ且ツ第四日、六日、九日ノ回周期性ノ上昇ハ殆ト一致シテ存在スルモノナリ。

要スルニ此ノ十二級ニ於ケル且ツ同級平均年齢ニ於ケル無意味讀書ノ能率ハ大抵皆回周期性上昇式ニシテ男子ノ方ハ年齢ノ

能率ノ發育一時停止スルモノニシテ其ノ十一年附近ノ發育停止ハヨク男子ノ夫レニ一致スルモノナリ。今左ニ一級ノ十日間ノ平均即チ十日間ノ各級字數ノ和ヲ十ヲ以テ除シタル平均一日ノ讀書能率ノ表ヲ擧ケンニ

第二十六表

Table with 4 columns: Grade (e.g., 第一年, 第二年), Gender (男子, 女子), Average Reading Rate (e.g., 68, 72), and Standard Deviation (e.g., 10.5, 11.2).

進ムニ從ヒ尋常小學ハ大抵一定ノ間隔ヲ有シツ、其ノ能力カ増進スルモノニシテ高等一、二年ハ通常男子ニ於テハ前述ノ如ク一級ノ人數少ナク且ツ生徒ノ質量自然劣等ナルカタメ其ノ平均能率ノ曲線ハ極メテ低落スルモノニシテ此ノ實驗ニ於テハ明ラカナル結果ヲ擧ケルコト能ハス、若シ女子ノ如ク人數ト其ノ質量トカ完全スル場合ニハ明ラカニ師範ト尋常小學トノ間ニ位シ吾人理想ノ發育研究ヲ遂ケ得ヘキモノナリ。

女子ニ於テハ尋常一、二年ヲ除クノ外ハ悉ク男子ヨリ能率ハ大ニシテ尋常六年即チ滿十二歳ノ頃ハ男女能率相伯仲シ高等小學及ヒ師範ニ於テハ男女ノ能率ノ差ハ年齢ノ進ムニ從ヒ益々大トナリ男子ヨリモ甚タ多數ノ讀書數ヲ有シ十七年頃ニ於テ男子ノ能率ヨリモ約二倍弱ニ達セントス、斯ノ如ク男女ノ能率ノ差ハ大ニシテ男子ノ如ク師範ハ三級共略同一ノ能率ヲ有スルニ非スシテ女子師範ニ於テハ第三年級即チ十七年七ヶ月位迄ハ漸々上昇シ此處ニ頂點ニ達シ十八年六七ヶ月頃即チ師範四年ハ二年ヨリモ大ナレトモ二年ヨリモ小ナリ、且ツ高等ノ兩學年ニ於テ即チ十四年附近及ヒ十四年四ヶ月附近ニ於テハ尋常六年ト師範一年トノ間ノ高サニ達ス、尋常五年及ヒ六年即チ年齢十一年一二ヶ月頃及ヒ滿十二年ノ頃ニ於テハ

Table with 4 columns: Grade (e.g., 師範一年, 師範二年), Reading Rate (e.g., 175, 185), and Standard Deviation (e.g., 10.5, 11.2).

以上ノ表ニ見ルカ如ク男子ノ能率發育ハ若シX軸ニ各級ノ年齢ヲトリY軸ニ讀書數ヲ擧ケ生スル所ノ能率ノ各點ヲ各々連結シテ曲線ニ作り見ルニ高等一、二年即チ十二年十ヶ月附近及ヒ十三年十ヶ月附近ノ此ノ兩級ノ甚タ低キ能率ヲ除クノ外ハ大抵先ニ發表シタル記憶曲線ノ如ク略一種ノ對數曲線ニ一致セントスルヲ見ル即チ男子ニ於ケル能率發育ノ曲線モ亦記憶發育ノ如ク大略對數曲線ニ一致スルモノ、如シ。

女子ニ於テハ高等小學及ヒ師範ノ能率極メテ大ナルカ故ニ若シ以上ノ如キ曲線ヲ作ル場合ニハ尋常二年ノ低落尋常五六年ノ低落(恐ラクハ一種ノ生理的一時發育停止ナランカ)十一年附近ニ於ケル生理的發育停止ハ記憶曲線ニモ儘ニ存在シ居レリ(ヲ除クハ儘ニ四十五度以上ノ角度ヲ以テ上昇スル一ツノ直線ニ近キ上昇曲線ヲ見ルモノナリ)十八年七ヶ月即チ師範四年ニ於テ一時低落シ急ニ上昇スル曲線カ停止セントスル傾アルヲ以テ見レハ女子ノ發育曲線ハ十九年又二十年頃ハ既ニ發育ハ徐々又ハ停止シ此處ニ一ツノ吾人ノ理想ナル對數曲線ヲ生スルナラン要スルニ女子ハ男子ヨリモ「ブルドン」ノ讀書實驗ニ依レハ極メテ大ナル能率ヲ有ス。

查目的ヲ達セントスル重要ナル表ノ一ツナリ。
此ノ曲線ノ數學的性質ハ後ニ追加トシテ之レヲ述ヘントス。

第三項

毎日ノ各讀字數ノ各差ヲ正又ハ負
ニテ増減シタル所謂代數的總和ニ
就キテ(即チ練習能率ニ就テ)

今第二日ノ讀字數ヨリ第一日ノ讀字數ヲ減シ若シ其ノ數カ第
二日ヨリ第一日ノ方少ナキ場合ハ之レヲ正(+)トシ之レニ反
スル場合ハ(-)ト稱ス、而シテ第三日ヨリ第二日ヲ減シ又第
四日ヨリ第三日ヲ減スルカ如ク漸々最終ノ十日迄之レヲ及ホ
シ其ノ差ヲ相加ヘ負号ノ差ナレハ之レヲ減シ即チ代數的ノ總
和ヲ作リ其ノ總和ハ各級ニ於ケル一人ノ總和ニシテ其ノ總和
ヲ一級中全實驗者ヨリ優、中、劣ノ三ツニ分チ各々其ノ組ニ
於テ平均ヲ作リ之レヲ左ノ如キ表ニ舉ケ且ツ各ノ全級ノ總平
均ヲ舉ケテ以テ各級各組ノ平均年齢ト比較シ此ノ比較ヲ以テ
年齢ニヨリ能率ノ發育ヲ論セントス、左ニ舉ケル數字ハ一級
又ハ一組(優、中、劣)ノ代數的讀字數ノ差ノ總和ナリ。

第二十七表

年級	男			女		
	平均	中	劣	平均	中	劣
第一年	6.65	6.50	7.33	7.00	6.93	6.91
第二年	+4.40	+3.96	+8.00	+4.01	+1.28	+91
第三年	8.01	8.04	7.92	7.83	7.95	8.17
第四年	+7.58	+6.63	+1.98	+3.60	+5.56	+5.90
第五年	9.81	9.22	10.25	9.25	9.23	8.97
第六年	+3.09	+2.83	+6.44	+7.31	+4.87	+4.42

年級	第一日	第二日	第三日	第四日	第五日	第六日	第七日	第八日	第九日	第十日
第一年	9.01	9.56	10.17	9.58	10.12	10.08	10.25	10.50	10.12	10.50
第二年	+2.77	+5.66	+1.61	+1.48	+9.46	+10.43	+13.01	+	+	+
第三年	11.18	11.27	10.75	10.75	11.15	11.21	11.00	10.58	11.18	11.27
第四年	+7.06	+9.04	+8.31	+1.65	+6.03	+9.34	+4.25	+7.85	+7.06	+9.04
第五年	12.07	12.12	11.93	11.75	12.00	11.94	12.33	12.25	12.07	12.12
第六年	+6.55	+7.15	+5.90	+2.93	+4.74	+5.43	+83	+1.28	+6.55	+7.15
第七年	13.86	13.10	12.75	12.00	13.90	14.07	12.75	12.66	13.86	13.10
第八年	+2.03	+3.06	+2.50	+2.18	+8.34	+9.17	+90	+3.13	+2.03	+3.06
第九年	15.86	15.96	15.75	15.68	14.94	14.39	14.35	13.75	15.86	15.96
第十年	+1.93	+2.31	-7.2	+2.20	+5.30	+5.94	+4.00	-2.22	+1.93	+2.31
第十一年	16.92	17.08	16.34	16.33	15.56	15.46	15.44	15.83	16.92	17.08
第十二年	+4.19	+3.39	+6.13	+7.53	+10.47	+12.23	+13.33	+8.50	+4.19	+3.39
第十三年	17.63	17.53	18.12	17.53	16.71	16.95	17.13	17.13	17.63	17.53
第十四年	+4.33	+3.92	+4.38	+6.14	+12.36	+13.46	+11.05	+	+4.33	+3.92
第十五年	13.95	19.19	18.08	19.00	17.61	17.33	18.25	18.00	13.95	19.19
第十六年	+4.12	+3.89	+6.24	+1.49	+16.93	+10.47	+17.62	+18.00	+4.12	+3.89
第十七年	18.56	18.83	17.91	18.94	18.56	18.83	17.91	18.94	18.56	18.83
第十八年	+1.63	+1.63	+1.63	+1.63	+1.63	+1.63	+1.63	+1.63	+1.63	+1.63

MEMO

但シ右ノ代數的總和ナル意義ハ第一日ヨリ進テ十日迄ノ間ニ
純粹ニ増加スル讀字數ヲ意味スルモノナリ故ニ此ノ數カ大ナ
ル時ハ練習能率カ大ナルト稱シ小又ハ「」ナル時ハ練習能率
カ小又ハ減退スルト稱ス。

先ツ中等ニ於テハ男子ノ練習能率ハ尋常二年、四年、五年、六
年比較的大ナル練習能率ヲ有シ其ノ内尋常二年ト五年最モ大
ナリ殊ニ五年カ最大ノ能率ヲ有シ六年之ニ次ク尋常小學ニ於

テハ三、四年ヲ除外ハ男子女子ヨリモ練習能率大ニシテ、
高等小學以上ハ悉ク女子ノ方甚ク多ク、師範ノ如キハ四倍
以上モ大ナル所アリ、即チ中等男子ノ練習能率ハ尋常五年ニ
於テ最モ多ク夫レヨリ上級ニ進ムニ從ヒ練習能率減退スルモ
ノナリ、但シ十七年以上師範各級ハ實驗セル三級共ニ略近似
スル能率ヲ有ス。

女子ノ中等ハ尋常四年ハ小學中最大ナル練習能率ヲ有シ殊ニ異
常ナル大能率ヲ有スルノ觀アリ、其他尋常五年ハ六年ヨリモ
多ク、尋常二年ハ之レニ次テ大ナリ、女子高等二年ハ理想ノ
練習能率ヨリ小ナレトモ尋常一年ヨリ師範四年ニ至ル迄ニ
曲線ヲ描キ見ルニ(但シ各級ノ中等年齢ヲX軸ニトリ讀字練
習能率ノ數ヲ舉ケテ各級ノ練習能率ヲ主トシ其ノ點ヲ連結セ
ハ一種ノ曲線ヲ得ルモノナリ)其ノ曲線ハ一種ノ對數曲線ナ
ルヘキモ直線ニ近キ曲線ナリ、即チ直線性上昇式ノ形狀ヲ有
ス。

次ニ優等ノ男子ハ尋常各年ニ於テ中等ヨリモ少シク小ナル數
ヲ有シ高等小學ニ於テハ高等二年ニ於テ練習能率減退ノ徵候
ヲ表シ(負號ノ練習能率)師範ニ於テハ中等ヨリモ其ノ二倍
ニ近キ練習能率ヲ有ス。
女子ニ於テハ中等ノ曲線ニ近似シ居リ各級中等ヨリ練習能
率ハ大ナレトモ中等ノ如ク規則正シキ練習發育ノ能率ヲ見ス
即チ尋常六年ト高等一年ノ其ノ増加ハ極メテ低キカ如キ不規
則ナル現象ヲ生ス兎ニ角優等ハ中等ヨリモ其ノ材料人數甚シ
ク小ナルカ故ニ其ノ結果モ亦不規則ナルヲ免レズ。
劣等モ亦優等ノ如ク材料僅少ナル事及ヒ其ノ全体ノ作業能力

カ劣等ナルカ故ニ練習能率モ從テ極メテ不規則ニシテ特ニ述
フル點少ナキヲ以テ之レヲ表ニ讓リ直ニ優、中、劣ヲ共ニ平
均シタル各級全体ノ練習能率ニ就キテ述ヘントス尋常一年ハ
男子ノ方女子ヨリモ三倍ニ近キ程大ナル練習能率ヲ有シ、尋
常二年ハ男子ノ方少シク大ナルモ男女共ニ頗ル大ナル能率ヲ
有シ尋常三年ハ女子少シク大ナル練習能率ヲ有シ且男女共尋
常二年ヨリモ小ナル練習能率ヲ有ス、尋常四年ハ女子極メテ
大ナル練習能率ヲ有シ男子ハ其ノ三分一以下ナル練習能率ヲ
有ス女子ハ尋常高等小學中最大ナル練習能率ヲ有スルモノ
ハ此ノ四年ナリ、尋常五年ハ男女共頗ル大ナル練習能率ヲ有
シ男子女子ヨリモ少シク大ナリ、尋常六年モ亦男子ハ頗ル多
キ能率ヲ有シ女子ハ少シク之レニ及ハス、高等一年ハ女子ヨ
リモ男子ノ方平均年齢約一年以上モ若キヲ及ヒ前記ノ如ク生
徒ノ質量ニ疑アルヲ以テ其ノ能率モ女子ニ及ハサルヲ甚ク多
ク其ノ三分一ニ達セントス、高等二年ハ男女共一年ヨリ少
ナキ練習能率ヲ有シ男子女子ヨリモ三分一少ナシ師範各級ハ
男子ハ女子ヨリモ總體ニ一年ツ、年長ナレトモ男子ハ師範一
二、三年ニ於テ共ニ殆ント同一ノ能率ヲ有シ女子ハ年齢ノ進
ムニ從ヒ益々練習能率ヲ増加スル傾向アリテ殊ニ師範三年ハ
最モ多シ。

今試ニ女子ニ於テハ尋常一年ノ頂點ト師範四年ノ頂點ヲ直線
ヲ以テ連結シ見ルニ尋常四年ノ高點ト尋常六年ノ低點トヲ除
ク外ハ大抵其ノ直線ノ附近ニ達セントシ男子ノ尋常二年ト師
範三年トノ點ヲ直線ヲ以テ連結スルニ尋常三、四年ト高等一
二年級ヲ除外ハ大抵皆其ノ直線ノ附近ニ達セントシ男子

ノ線ハ年齢ノ進ムニ從ヒ下降シ女子ノ線ハ約四十五度ノ角ヲ以テ上昇シ大約尋常六年ノ男子ノ頂點ニ於テ男女ノ假直線カ交叉ス。

第四項 休日カ練習能率ニ關係有ルヤ否ヤ

今各級ニ於ケル休日以外ニ於ケル各練習日ノ練習能率ヲ出シ即チ第二日ト第一日ノ差ノ如キ差ヲ出シ夫レヲ差ノ現出度數ニテ除シ即チ平均ノ練習能率(差)ヲ得タリ、今其ノ差ハ表ニ於テ・ナル符號ノ列ニ於テ之レヲ表シ例ヘハ正六十八ハ練習カ増進スル事ヲ意味シ「」ハ練習ノ増進カ減スル事ヲ示ス、次ニ本問題ヲ解決スルニハ休日ノ前後ノ日ノ讀字數ノ差ヲ出シ小學ニ於テハ第五日ト、第六日トノ間ニアル休業第八日ト九日ノ間ニアル休業、第九日ト十日ノ間ニアル二日間ノ休業ノ前後ノ日ノ讀字數ノ差ヲ出シ、即チ第一休日ノ差、第二休日ノ差第三休日ノ差ト稱ヘ、第二第二ノ休日ハ只一日ノ休業ニシテ第三休日ハ二日連續ノ休日ナリ今其ノ第一休日ト第二休日トノ二ツノ差ノ平均ヲbトナシ第三休日即チ二日間連續ノ休日ニ於ケル差ヲcトシ次ニ第一、第二、第三休日ノ差ノ平均ヲdトシ表ニ舉ケタリ其ノ各級ニ於ケル數ノ正及ヒ負ノ記號ノ意味ハ正ハ練習能率増進ヲ表シ負ハ練習能率減退ヲ意味ス即此ノ數ニ於テ大ナル數ハ若シ正ナル符號ヲ有スレハ能率増進大ニシテ少ナキ數ハ能率増進少ナキモノニシテ「」ナレハ數ニヨリテ減少ノ度合ヲ知リ得ルモノナリ、次ニ此ノ項ニ於ケル問題ヲ解決スルニハ平日ニ於ケル練習能率ト各休日ノ前後ノ差トヲ比較スル事必要ナルカ故ニ今ヨリトテ代

第一級	男	17.63	+ 58	- 36	+ 94				
	女	16.71	+ 71	+ 387	- 296				
第二級	男	18.05	+ 58	- 57	+ 113				
	女	17.61	+ 139	- 250					
第三級	男	—	—	—	—				
	女	18.56	+ 76	+ 513	- 457				
第四級	男	12.45	+ 43	+ 12	+ 31	+ 171	- 132	+ 73	- 31
	女	12.83	+ 56	+ 147	- 91	+ 206	- 233	+ 103	- 91

注意 小學ノ二日間連續休業ヲ「」ナリ
以テ其ノ平均ノ小學八級ノ平均
ナリ其ノ平均ノ尋常六年ノ平均
女子・女子ナリ

今休日以外ニ於ケル練習平均能率ニ就キテ述ヘンニ男子ノ方ハ尋常初級ニ於テハ其ノ數頗ル多ク、高等一、二年ニ於テハ其ノ數甚タ少ナシ、師範ニ於テハ男子ハ殆ト甚タ近似セル數ヲ有ス。女子ハ尋常小學ニ於テハ練習能率甚タ不規則ニシテ高等一年以上ハ其ノ數甚タ多シ即チ此ノ事ハ既ニ前項ニ於テ詳述シタルカ故ニ本項ノ問題ニ移ラントス。
bハ一日ノ休業前後ニ於ケル平均讀字數ノ差ニシテ男子ニ於テハ尋常一、二年級ハ極メテ少ナク又ハ減退シ尋常三年ハ急ニ増進シ其ノ他頗ル不正確ナル減退ヲ示セルモ尋常六年ニ頂點ニ達シ高等一、二年ハ其ノ差甚タ少ナク、師範二、三年ハ悉ク休日影響ヲ受ケテ其ノ能率ハ減退スルモノナリ。女子ニ於テハ尋常ハ殆ト皆一日ノ休日ニヨリテ能率増進シ其ノ數モ亦頗ル多シ、高等一、二年ハ減退シ殊ニ二年ニ於テハ甚シク之レニ反シ、師範一年以後ハ一日ノ休日ニヨリテ其ノ能率甚

數的ニ減シ其差ヲ出シ此處ニ表ニ於ケルa、b、c、d、e、f、g、h、i、j、k、l、m、n、o、p、q、r、s、t、u、v、w、x、y、z、の三個ノ比較ノ表ヲ舉ゲタリ。

第二十八表

年	休日以外ノ練習能率	休日ノ練習能率	休日ノ前後ノ練習能率	休日ノ前後ノ練習能率	休日ノ前後ノ練習能率
年	a	b	c	d	e
第一級	男 6.65	+ 68	+ 10	+ 58	+ 10
	女 6.92	+ 10	+ 85	+ 19	+ 29
第二級	男 8.01	+ 107	- 17	+ 121	+ 161
	女 7.95	+ 61	+ 30	+ 31	+ 100
第三級	男 9.31	+ 4	+ 100	- 56	+ 86
	女 9.23	+ 7	+ 94	- 87	+ 197
第四級	男 9.61	+ 14	+ 37	- 53	+ 116
	女 10.12	+ 63	+ 23	+ 37	+ 512
第五級	男 11.18	+ 61	+ 24	+ 85	+ 327
	女 11.15	+ 41	+ 20	+ 5	+ 349
第六級	男 12.07	+ 34	+ 66	- 32	+ 317
	女 12.00	+ 15	+ 96	- 81	+ 191
第七級	男 12.86	+ 21	+ 6	+ 15	+ 154
	女 12.90	+ 63	- 28	+ 91	+ 509
第八級	男 13.80	+ 3	+ 12	+ 9	+ 140
	女 14.34	+ 100	- 155	+ 255	+ 238
第九級	男 16.92	+ 48	+ 35	+ 13	—
	女 15.56	+ 52	+ 340	- 233	—

々増進スルヲ見ル即チ二日間ノ休日ハ概シテ其ノ翌日ニ於ケル能率ヲ増進スルモノナリ、此ノ表ノ末ニ於テ各級ノ平均ヲ學々見ルニ男子ノ休日以外ノ練習能率増進ハ四十三ナルニ日休日後ノ練習能率増進ハ二十二ナルニ反シ女子ハ休日以外ノ増進五十六ニシテ一日休業後ノ増進能力ハ男子ヨリモ約十二倍ニ當ル程大ナリ。

今休日以外ノ練習能率ト一日休業後ニ於ケル増進トノ比較(差)即チa、b、c、dノ差ヲ述ヘンニ此ノ場合ニ於ケル正負ノ記號ノ意義ハb、c、dノ如キ意義ト異リ例ヘハ正五十八ナル數ハ一日休業後ノ練習能率カ休日以外ノ練習能率ヨリモ小ナル事ヲ意味シ、負九十五ノ如キハ休日以外ノ練習能率ヨリモ大ナル事ヲ意味ス即チ休日ニ依リテ能率増進カ平日ヨリモ大ナル意味ナリ。小學ニ於ケル男子ハ通常休日ニヨリテ増進又ハ減退シ一定ノ法則ナキカ如キモ尋常三年ト四年ト六年ト高等二年ニ於テ負號ヲ有シ即チ休日ニヨリテ増進シ殊ニ尋常三年最モ大ニシテ師範全体ハ休日後ハ幾分カ小數ナルトモ平常ノ能率ヨリ少ナシ。女子ニ於テハ尋常一年、三年、六年ニ於テ負號ヲ表シ即チ平常ノ能率ヨリモ稍多キ能率ヲ休日後ニ表シ、高等一、二年ハ兩級共休日後ニ能率減退スルモ師範全体ハ皆平素ヨリモ甚タ大ナル増進ヲ表スモノナリ、即チ各級ヲ平均シ見ルニ男子ハ平素ノ練習能率ヨリ少ナキ事三十一ニシテ女子ハ休日後ハ九十一ノ練習能率ヲ増ス換言スレハ男子ノ一日間ノ休日後ノ作業能率ハ平素ヨリモ少ナク女子ハ平素ヨリ頗ル大ナリ。
次ニ二日間連續ノ休業ハ只小學ノ三ニ於テ存在シ師範ニハ少シ

モナキヲ以テ其ノ平均ノ如キハ只單ニ小學ノ平均ニ止マ
ルモ其ノ結果ハ甚タ興味アリテ概シテ男女共ニ日休業後ノ作
業能率ハ表ニ示スカ如ク大ナル數字ヲ有シ到底一日休業後ノ
作業能率ノ比ニ非ス且ツ男女共ハ八級ニ渉ル小學ニ於テ一ツモ
負號即チ能率減退ノ現象ヲ見サルノミナラス各級ノ平均ニ於
テ男子ノ一日休業後ノ能率正十二ニ對シテ二日休業後ノ正百
七十一ノ如キ大數ヲ見ル女子ハ一日休業後ノ能率正五十六ニ
對シ二日休業後ノ能率ハ正二百六十五ノ大數ヲ見ル即チ一日
ノ休業ヨリモ二日間ノ休業ハ其ノ作業能率ヲ増ス事大ニシテ
殊ニ男子ノ方女子ヨリモ大ナル回復ヲ見ルモノナリ、
如キハ尋常一年ノ男子ニ只一ツ正號ヲ即チ平常ノ練習能率ヨ
リモ小ナル二日休業後ノ能率ヲ有スルノミニシテ其ノ他ハ男
女共ニ平常ヨリモ大ナル能率ヲ有ス、殊ニ女子ニ於テ甚タ大
ナル作業能率ヲ有スルハ實ニ特色トスヘキナリ、即チ各級
ノ平均ニ於テ(バー)ト比較スルニ男子ハ正三十一(平常ヨリ
モ小ナリ)ニ對シ(バー)ハ負百二十二即チ平常ヨリ大ナル能
率ヲ表シ、女子ノ(バー)ハ平常ヨリ大ナル(九十一)ニシテ
(バー)ハ實ニ二百二十三ノ大増進ヲ見ル。

今休業ガ翌日ノ作業能率ニ如何ニ影響スルカヲ概括シテ論セ
ントスルニ際シdナル差平均ヲ表スニハ一日ノ休業ト二日連
續ノ休業トノ練習能率ヲ平均シ即チ小學ニ於テハ二日連續ノ
休業ヲ有スルカ故ニ師範ト共ニ平均スル事能ハサルヲ以テ表
ノ最終ニアル各級ノ平均ハ同シク八級ノ平均數ナリ。dハ女
子高等小學二年ヲ除ク外ハ男女共皆増進スルモノニシテ内尋
常三年女子、尋常四年女子、五年ノ男女子、六年ノ男女子、

高等一年ノ女子甚タ大ナル増進能率ヲ有シ尋常一年ノ男子、
尋常二年ノ男子、高等二年ノ女子ハ僅ナル増進能率及ヒ減退
能率ヲ有ス、今各級ノ平均ヲ見ルニ男子ハ正號即チ増進七十
三ヲ算シ女子ハ同ク百三ヲ有ス。
次ニ(バー)ニ就テ論セン尋常一年ノ男子、二年ノ男女子、
高等二年ノ女子カ休日以外ノ練習能率ヨリモ小ニシテ其ノ他
ハ悉ク平常ノ能率ヨリモ休日後ノ作業能率カ大ナル(バー)示ス
即チ休日ヲ全般ニ論スルハ平常ノ小學生ノ練習能率平均男子
三十九、女子四十二ニ對シテ休日後ノ能率ハ七十三及ヒ百三
十ナリ且ツ平常ノ作業能力ト休日平均ノ能力ノ差カ男子カ負
即チ増進スルコト三十四女子負即チ増進スルコト六十一ナリ。
以上ノ要領ヲ振率スルニ
(一)一日ノ休業ノ翌日ノ作業能力ハ平常ノ練習能率ヨリモ遙
ニ大ナリ但シ男子ハ減退スルモ女子ハ甚タ増進スルノ理由
ハ不明ナルモ或ハ休日ニヨル男子ノ娛樂的的身體過勞即チ運
動遠足等ヲナシ女子ハ之レニ反シテ家庭ニテ靜養スルニ原
因スルモノナラン。

(二)二日間連續ノ休業ハ一日ノ休業ヨリモ甚タ大ナル能率ヲ
其ノ翌日ニ於テ現出ス其ノ精細ナル數字の量ハ表ニアル
ヲ以テ表ヲ参照スヘシ。

第二十九表

曲線ヲ作り之レヲ第一編第一章ノ緒論ノ内ニ述ヘタル曲線各
型式ニ準シ各々其ノ型式ニ名稱ヲ附シ次テ此ノ各型式カ一級
中ニ何度現出スルカヲ算出シ便宜上一級ヲ百ト見做シ之レヨ
リ各型式ノ現出度數ヲ百分算ニ換算シ小學及ヒ師範各級ニ於
ケル表ヲ左ニ擧ク但シ優、劣ハ小學ニ於テハ甚タ少ナクシテ

型式略號	回急	回急	回急	回急	回急	回急	回急	回急	回急	回急	回急	回急	回急	回急	回急	回急	回急	回急	回急	回急
尋常一年	男	三三	二三	二二	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一
尋常二年	男	二三	二三	二三	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一
尋常三年	男	二三	二三	二三	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一
尋常四年	男	二三	二三	二三	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一
尋常五年	男	二三	二三	二三	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一
尋常六年	男	二三	二三	二三	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一
尋常一年	女	二三	二三	二三	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一
尋常二年	女	二三	二三	二三	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一
尋常三年	女	二三	二三	二三	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一
尋常四年	女	二三	二三	二三	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一
尋常五年	女	二三	二三	二三	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一
尋常六年	女	二三	二三	二三	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一

大概一名宛ヲ算スルヲ以テ決シテ適當ナル優、中、劣ノ結果
ヲ得ルヲ能ハサルヲ以テ師範ニ於ケル少シ許ノ異例ヲ犧牲ト
シ優、中、劣ノ區分ヲ廢シテ只單ニ一ツノ級ノ平均トナシ左
ニ其ノ數ヲ擧ケタルモノナリ。

師範	一年	二年	三年	四年	各級平均	師範	一年	二年	三年	四年	各級平均
男	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	男	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
女	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	女	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

回期性上昇式ニ就テ

今同期性上昇式ニ就キテ各級ノ年齢ヲ軸トシ其ノ現出度數ノヨリ軸ニトリ試ニ線ヲ引キ見ルニ尋常一年ニ於テハ男子二十ニシテ女子ハ其ノ半ニ達シ尋常二年ハ尋常一年ヨリモ猶ホ略二倍ニ升リ女子ハ男子ノ半以上ニ達シ尋常三年ニ於テハ女子ハ尋常二年ヨリモ多ク五十%ニ達シ男子ハ之ヨリ少シク少ナク尋常二年ト殆ト同一ナリ、尋常四年ハ三年ヨリモ男女共甚ク低ク男子大ナルトモ三十%ニ達セス、尋常五年男子ハ四年ヨリ尙ホ少ナク女子ハ少シク四年ヨリモ多シ、尋常六年ハ女子ハ非常ニ大ナル現出度數ヲ表シ六十七%ニ達セントシ男子ハ之レニ反シテ女子ノ三分ノ一弱ニ減シ高等一年ノ男子ハ尋常六年ヨリモ尙ホ小ニシテ女子ハ尋常六年ノ約二分ノ一ニ當ル即チ尋常六年ハ女子ニ於テ最大ノ現出度數ヲ有シ之レヨリ師範ニ進ムニ從ヒ漸々其ノ現出度數減少シ師範三、四年ニ於テハ一ツモ存在セザルニ至ル、之レニ反シテ男子ハ

高等二年ハ尋常ニナキ大ナル數ニ達シ六十七%ニ至リ師範一年ハ現出度數最モ多ク七十五%ニ達シ之レヨリ漸々減少シテ師範三年ハ六十%ニ至ル要スルニ男子ノ十四歳附近ヨリ十九歳ニ至ル間ハ同期性上昇式甚ク多クニシテ女子ハ同期性上昇式ノ現出度數極メテ小ナリ、今各級ヲ通シテ其ノ現出度數ヲ平均シ見ルニ同期性上昇式ハ男子約四十二%、女子ハ僅ニ二十五%ヲ算ス即チ年長ナル男子ノ特色トシテハ同期性上昇式ハ最モ多ク女子ハ稀ナリ。

回期性急上昇式ニ就テ

尋常一年ハ男子ノミ僅ニ存在シ二年ハ之レヨリ少シク多ク男女共同數ニ存在シ、尋常三年ハ女子ノミ八%ノ小數ニ存在シ尋常四年ハ男子僅ニ約十八%ナルニ女子六十%以上ニ現出シ尋常五年ハ男子甚ク多ク女子ハ三十%ニ降り、尋常六年即チ十二歳附近ハ男子ノミ二十%以下ニ存在シ夫レヨリ以上ノ級ニ於テハ男子ハ只師範一年ニ僅八%存在セルノミニテ他ハ一

ツモ存在セス之レニ反シテ女子ハ高等二、三年ニ二十%以下ニ存在シ師範ノ四個級ニ於テハ六十%ヨリ九十%(師範三年)ニ至ル大多數ノ現出度數ヲ表ス要スルニ小學ニ於テハ年齢十一年即チ尋常四年ニ於テ女子ハ急激ニ増加スル所ノ能率ヲ表シ一時全ク減少シテ師範ニ於テハ實ニ甚クシキ練習能率ヲ表スニ至ル換言スレハ作業能率ノ増進ハ女子ハ十歳附近ト十六歳以上ノ年齢ニ於テ甚クシク其ノ他ノ年級ハ著シカラス男子ハ之レニ反シテ尋常五年十一歳附近ニ於テ中等度ノ急激増進ヲナスノ外ハ前述ノ緩慢ナル増進即チ同期性上昇式ヲ發育スルモノナラン今各級ヲ通シテ平均スルニ男子ハ僅ニ十一%ニシテ女子ハ其ノ三倍強ノ三十六%ノ現出ヲ有ス即チ女子ノ練習能率ノ急激増進ハ實ニ男子ノ三倍強ニ當リ男子ハ即チ女子ヨリモ緩慢ナル練習能率ヲ有ス。

同期性凸狀式ニ就テ

此ノ型式ハ男女共尋常一、二、三年ノ如キ年少ナル年級ニ現出度數比較的多ク年ノ進ムニ從ヒ其ノ現出度數ハ漸々減スル傾向アリ但シ高等一年ニ比較的多ク三十三%以上ノ男子ノ現出度數アリ、今此ノ曲線式ノ性質ヨリ考フレハ其ノ練習能率ハ毎日増進スレトモ其ノ或所ヨリ再ヒ減退シ練習能率カ退歩スル所ノ意義ヲ有スルモノナリ、即チ年少ノ男女ト高等一年ノ男子即チ恐クハ劣性ノ生徒タル高等一年ニ其ノ發育即チ練習ニ關スル練習能率ノ退歩ヲ見ルナラン、今其ノ現出度數ノ一般ヲ知ラシカ爲メニ各級ヲ通シテノ平均ヲ表サンニ男子ハ十一%、女子ハ八%ノ如キ小ナル%ヲ有シ現出度數ヨリ云ヘハ第五位ニ屬ス。

同期性急凸狀式ニ就キテ
同期性急凸狀式ハ蓋シ急ニ其ノ能率カ増シ後又再ヒ減退スルノ意義ニシテ同期性凸狀式ト同ク教育上餘リ歓迎スヘカラサル型式ナリ男子ニ於テハ同期性凸狀式ト同ク尋常四年迄ノ幼年ノ級ニ比較的多ク存在シ他ハ始ト論スルニ足ラス、女子ハ十四歳附近(高等一年)ニ於テ四十四%ニ昇ル現出度數ト高等二年ニ於テ三十二%ニ達スル現出度數アリテ師範ニハ尋常小學ヨリモ少シク現出度數ヲ有ス、今全般ノ度數ヲ窺ハシカ爲メニ各級ノ平均ヲ舉ケテハ男子僅ニ七%弱、女子ハ十四・五%ヲ算シ現出度數ヨリ云ヘハ大約四位ニ屬ス。

同期性並行式ニ就テ

同期性並行式ハ練習能率カ毎日増進モセス又退歩モセス始メヨリ終リ迄其ノ儘ニ止マル所ノ型式ニシテ同期性上昇式又ハ同期性急上昇式ノ如ク有望ナル型式ニ非ス此ノ同期性並行式ハ尋常五年ノ女子三十%尋常六年ノ男子三十六%ノ外ハ尋常一年ノ女子ト師範三年ノ男子カ二十%附近ニアリテ尋三、四年及ヒ高等一、二年ノ男子カ之レニ次ク能率ヲ有ス、要スルニ女子ノ十一年男子ノ十二年附近ニ比較的多ク現出スル所ノ型式ナリ今各級ノ平均ヲ見ルニ男子約十四%、女子九・五%ヲ算ス且ツ現出度數ハ第三位ニ位ス。

以下記載セントスル型式ハ皆五%以下ノ現出度數ヲ有スル型式ニシテ殆ト條目ヲ舉ケテ記載スル價値ナキモ比較的顯著ナル現象ノミヲ述ヘントス。

高原凸狀式ニ就キテ

此型式ハ口々ノ能率カ急ニ上昇シテ一定ノ期間之レヲ持續シ

後多少減退スル型式ニシテ教育上ヨリ見レハ回期性並行式ヨリモ稍有望ナリ今其ノ%數ヲ見ルニ尋常一年ヨリ六年迄ハ男子ノミ比較的多ク存在シ師範一年ニ少シ存在シ女子ハ只全級ヲ通シテ5%以下ノ現出カ師範一年ニアルノミ他ハ一ツモ存在セス要スルニ男子ニ特色ナル型式ナラン、其ノ各級平均現出度數ヲ見ルニ男子ハ約四%女子ハ一%ニ達セス。

回期性凹狀式ニ就テ
回期性凹狀式ハ凸狀式ヨリモ有望ニシテ之レハ只男子尋常六高等一、二年ノ三級ニノミ存在ス。

直線上昇式ニ就テ

直線上昇式モ亦男子ノミニシテ女子ハ少シモ存在セス尋常一年ト師範一、二、三年ノミニ現出シ各級平均ハ男子三・四%女子ハ〇ナリ。

其ノ他ハ殆ト論スルニ足ラス

今此ノ章ヲ終ルニ當リ要領ヲ舉クレハ左ノ如シ

- (一)、回期性上昇式ハ男女共ニ最も多ク現出スル型式ニシテ殊ニ男子女子ヨリモ甚タ多ク且ツ年長ノ各級ニ於テ表ハル、型式ナリ、女子ハ男子ヨリモ弱年ニ表ハレル傾向ヲ有シ尋常三年ヨリ六年迄カ比較的多ク表レ年齢力進ムニ從ヒ其ノ數著シク減少ス此ノ型式ハ男子ニ特色ナル傾向ヲ有ス。
- (二)、回期性急上昇式ハ回期性上昇式ニ次テ甚タ多數ニ現出スル型式ニシテ女子ハ尋常小學ニ於テハ四年、五年多ク師範全体ハ甚タ大ナル數ヲ以テ存在シ男子ハ尋常五年十一歳附近ニ於テ多數ニ現出スル外甚タ稀ニ見ル所ノ型式ナリ、要スルニ此ノ型式ハ女子ノ特色ト見做スヘク殊ニ十五歳以上

ノ女子ニ最も多ク見ル所ノ型式ナリ。

- (三)、回期性並行式ハ第三位ニ多ク現出スル型式ニシテ多クハ男子ノ九年以上及ヒ師範即チ青年ニ近キ十七、八、九歳頃ニモ現出スル所ノ種類ニシテ十二歳附近ニ於テ最も多ク現出ス、女子ハ尋常小學ニ於テハ男子ト相對スル數ヲ以テ現出シ高等一年ニ僅ニ存在シ他ニハ存在セス要スルニ九歳ヨリ十二歳ニ至ル間ニ多ク現出スル型式ナリ。
- (四)、回期性急凸狀式ハ第四位ニ位スル型式ニシテ弱年ノ男子ト十四歳以上ノ女子ニ比較的多ク現出ス。
- (五)、凹狀式及ヒ回期性凹狀式ハ十二歳ヨリ十四歳ニ至ル男子ノミニ現出スル稀ナル型式ナリ、其ノ他ノ級ニハ一ツモナシ。
- (六)、回期性凸狀式ハ第五位ニ現出スル型式ニシテ年少ノ男女生徒ト想像的劣等ノ生徒ニ表ハル、型式ナリ。

追加

第一編及第二編ニ於ル各級平均作業能率(讀字數)曲線ノ數學上ノ研究

本問題ニ對スル研究ハ九州帝國大學工學部教授工學博士小野鑑正氏及同學部講師岡本勇象氏ニ依リテ完成セシモノニシテ此項ヲ追加スルニ當リ特ニ同氏ノ多大ナル勞ヲ謝ス。男子及女子ノ夫レ夫レノ實驗成績ヲ式ニテ示サンカ爲メニ先ツ直交座標軸ヲトリ(圖ハ省略ス)年齢ト讀字數トヲ座標トスル點ヲ記セハ多少不規則ナルヲ免レサルモ大体ニ於テ次ノ如

x	y
7	935
8	1098
10	1364
12	1565
14	1718
16	1833
18	1921
19	1957

「女子ノ曲線方程式」次ニ $y = A + Bx$ (直線)中ノ常數ハ實驗ノ結果ヨリ直ニ最小二乘法ヲ用ヒテ計算シタリ即次ノ如シ

(I) $y = 189.5 + 63.86x$

(II) $y = 710.5 + 205.94x$

第一式ハ即チ前記男子ノ第一式ト同様第一編短期作業實驗注意ノ動搖第四章第十三表中各級ノ各五分全平均讀字數ヨリ成ル實驗曲線ニ大概一致スル曲線方程式ナリ。第二式ハ男子ト同様第二編第三章第二項各級ノ長期作業平均量第二十六表ノ實驗曲線ニ大概一致スル所ノ曲線方程式ナリ(完)

參考論文

Boudon:.....Revue philosoph. 1895 P. 135
 Kraepelin:.....Additionsmethode, Kraep. Psychologische Arbeiten 1900 Leipzig
 Kraepelin:.....Die Arbeitscurve, Philosophische Studien Bd. 19, 1902
 Reich:.....Sortierverfahren. All. Zeitschrift f. Psychologie Bd. 64
 Sakaki, Y.:.....Ernährungsversuche in vier Japan. Schulen. Internat. Archiv. f. Schulhygiene. Bd. 1, Heft 1, 1906

形勢ヲ認ム。即チ男子ニ對スル各點ノ間ヲ縫フ曲線ノ高サカ年齢ト共ニ増大スル割合ハ年齢ノ進ムニ從テ小トナル。之ニ對シテ女子ノ各點ハ本實驗ノ範圍ニ於テハ殆ト直線狀ニ配列セラレテ前記ノ如キ傾向ナシ。依テ男子及女子ニ對スル曲線ヲ次ノ方程式ニテ表シタリ。

男子 $y = A - Be^{-ax}$ (對數曲線)

女子 $y = A + Bx$ (直線)

但シA、B、C等ハ互ニ無關係ノ常數トス。

「男子ノ曲線方程式」先ツ $y = A - Be^{-ax}$ 中ノ常數A、B、Cヲ定メンカ爲メニ略實驗ノ結果ヲ表ス如キ前記曲線ノA、B、Cヲ定メ然レ後此方程式ヲシテ一層良ク實驗ノ結果ニ適合セシムル爲メ最小二乘法ヲ用ヒテ之等常數ノ補正ヲ行ヒ其結果次ニ記載セル如キ式ヲ得タリ而シテ之等ノ式ハ略實驗ノ結果ト合致ス。

(I) $y = 1003 - 280.5e^{-0.170x}$ (短期作業)

此方程式ハ第一編第四章第十三表中各級ノ各五分ノ全平均讀字數ヨリ成ル實驗曲線ニ大概一致スル曲線方程式ナリ(二九八頁)

x	y
8	413
10	584
12	704
14	791
16	852
18	896
20	927

(II) $y = 2195 - 3326.1e^{-0.1887x}$

此方程式ハ第二編第三章長期作業第二項各級ノ平均作業量第二十六表ノ實驗曲線ニ大概一致スル所ノ曲線方程式ナリ。

楢崎淺太郎 練習ニ依ル意志動作發達ノ程度及其標式。
心理研究第一卷第四、五、六號。(其他同氏
著及ノ實驗的研究
雜誌第二卷五四六)

松本亦太郎 實驗心理十講
概シテ注意及能率ノ年齡的發育ニ關スル論文ハ其數實ニ僅少
ナリ。

第三編 クレツペリン 加算法ヲ用

ヒテ實驗セル短期作業又
ハ注意ノ動搖發育研究追
加練習及ビ疲勞

第一章 緒論

第一編ニ於テフールドンノ改法ヲ用ヒ精神作業ノ發育ノ注意
ノ動搖、練習、疲勞ヲ研究セシモ尙ホ本編ニ於テハクレツ
ペリンノ單位加算法ヲ用ヒテ第一編ニ於ケル研究ト本研究ト
カ如何ニ異ナルカ兩法ノ何レカ正確ナルキヲ實驗セントシ
且ツ兩方法ヲ平均シタル結果ヲモ試ニ舉ケント欲ス。

注意動搖ノ形式分類ハ第一編ニ分類ト同一ナリ。
實驗方法。クレツペリンノ方法ニ全ク從テ左ノ如キ單位數
字ヲ列シ被實驗者ヲシテ兩數字間ニ其ノ和ヲ記載セシメ、一
分宛ニ鈴又ハ棒ヲ以テ時刻ヲ報ラシ其ノ一分間ノ數ノ和ヲ記
載セシメ又一方ニ於テハ其ノ二分間ニ加算シタル數字ノ數ヲ
モ記載シ其ノ數字ノ數ヲ以テ本實驗ハ其ノ被實驗者ノ精神作
業ノ能率ト看做シ又一方ニ誤算シタル數ヲモ調査シ疲勞及ヒ
練習等ノ參考ニ供シタリ。 (L. B. 1. 1. 1. 1. 1.)

6	6	7	8	2	5	3	9	6	8	7	9	8
2	7	5	4	1	3	7	2	5	9	4	1	6
6	7	8	3	5	4	9	3	8	3	4	7	5
6	7	6	2	5	8	3	4	9	7	1	9	2
5	2	9	2	3	8	4	8	2	3	8	9	6
5	6	2	5	4	6	3	9	1	2	3	8	4
7	9	8	1	6	8	9	2	7	3	8	2	4
6	5	4	2	7	5	3	4	5				

其ノ實驗ニ於テ大正九年二月十七日福岡師範學校附屬小學
生徒(尋常一年ヲ除キ)ヲ約二百九十名及ヒ本科生二百七十
二名ヲ實驗シ、同年二月二十八日福岡女子師範學校生徒二百
七名ヲ同三月三日女子師範附屬小學生徒三百〇二名ヲ實驗
シタリ、然レトモ右人員中鈴又ハ信號ヲ聞キ間違ヒ實驗シタ
ル全分數ニ合ハサルモノハ悉ク之レヲ省キ實驗分數ニ相違ナ
キ實驗用紙ヲ差シ出シタル生徒ヲ以テ本研究ノ心ノ材料トナ
セリ其ノ人員及ヒ一級ノ平均年齡ヲ舉ケレハ左ノ如シ

第一表

讀字數ト計算字數トハ其ノ價值カ同等ナルニ關セス數ニ於テ
大差アルヲ以テ計算字數ヲ十倍シ以テ其ノ平均ニ於テ兩方法
ノ不平均ヲ防キタリ以下各表皆之レニ準ス。然レトモ讀字法
實驗時間ハ短ク加算法實驗ハ長時間ニ涉リタル故ニ其ノ時間
ノ差カ大ナル場合ト曲線ノ性質カ全ク異ナリタル場合トニ於
テハ其ノ平均ヲ取ラス。

第一表

加算法		讀字法		平均	
第一ノ五分	四三	男	四三	男	三三〇
第二ノ五分	四三	女	四三	女	三三〇
第三ノ五分	四三	男	四三	男	三三〇
第四ノ五分	四三	女	四三	女	三三〇
第五ノ五分	四三	男	四三	男	三三〇
第六ノ五分	四三	女	四三	女	三三〇
第七ノ五分	四三	男	四三	男	三三〇

第一章ニ述ヘタルカ如ク各人ノ計算字數及ヒ誤算個所ノ數ハ
又之レヲ五分宛ニ細メ其ノ和ヲ以テ五分間ノ各人ノ作業能率
トナシ以テ第一編ニ於ケルフールドン法ノ結果ト比較スルニ
便ナラシメタリ。余カ經驗上五分間作業量ニテ發育調査ニハ
充分ナリト思考ス、故ニ今後ハ主トシテ五分間作業量ヲ以テ
單位トナシ精密ヲ要スル場合ノミ一分間ノ量トス。

尋常二年作業

被實驗者ノ數及ヒ平均年齡ハ第一表ニテ五分間ノ計算字數
ハ第二表ニ示ス尙ホ同表中ニハ比較ノ爲メ前編讀字數(但シ
中等生徒ノ結果ノミ採用)及ヒ其ノ兩者ノ平均ヲ舉グ、但シ

分迄ハ最高能率ヲ以テ經過スルモノナラン、三十五分ノ作業ニテハ疲勞ヲ認メス。...

女子ニ於テハ計算字數曲線ハ第五ノ五分最高能率達シ第七五分ニ於テハ多少低降ス、讀字數ノ最高點モ第五ノ五分ニアリテ兩法ノ結果ヨク一致シ讀字數ノ第三ノ五分ヲ除ク外ハ兩曲線極メテ一致ス、今兩曲線ノ平均線ヲ見ルニ讀字曲線ノ第三ノ五分ノ影響ヲ受ケテ此處迄ハ軸ニ並行ニ走り第五ノ五分ニ於テ最高能率達シ第六ノ五分ハ最早低降ニ傾ク、要スルニ女子ハ始業二十五分ニ於テ最高能率達シ其ノ作業能率ハ之ヨリ漸次低降スルモノナラン。

尋常三年作業

第三表

項目	加算法		讀字法		平均	
	男	女	男	女	男	女
第一ノ五分	83.5	83.5	83.5	83.5	83.5	83.5
第二ノ五分	83.5	83.5	83.5	83.5	83.5	83.5
第三ノ五分	83.5	83.5	83.5	83.5	83.5	83.5
第四ノ五分	83.5	83.5	83.5	83.5	83.5	83.5
第五ノ五分	83.5	83.5	83.5	83.5	83.5	83.5
第六ノ五分	83.5	83.5	83.5	83.5	83.5	83.5
第七ノ五分	83.5	83.5	83.5	83.5	83.5	83.5
第八ノ五分	83.5	83.5	83.5	83.5	83.5	83.5
第九ノ五分	83.5	83.5	83.5	83.5	83.5	83.5
第十ノ五分	83.5	83.5	83.5	83.5	83.5	83.5

男子計字數(計算字數ノ略號)曲線ハ規則正シク上昇シ第五ノ五分ニ於テ最高能率達シ、夫レヨリ漸次低降シ、第八ノ五分

尋常四年作業

第四表

ニ於テ多少上昇スルモ最高能率五分ニ及ハサル由達シ、讀字數曲線ニ最後ノ第六ノ五分ニ於テ最高能率達シ夫レ迄ハ經過ニ多少凹凸ヲオシテ其最高點ニ達ス兩者ノ最高點ニ差ハ約五分ナリ、今其平均ヲ取ルニ最高點ハ計字數ノ影響ヲ受ケテ第五ノ五分ナルモ第六ノ五分トハ殆ト微少ノ差ヲ有シ第五ノ五分ニ於テハ最高能率ヲ有スルモノト認メラズ、即チ尋常二年ノ最高能率ヨリ尋常三年ノ最高能率ノ方カ約五分後アリ、要スルニ尋常三年ニ於テハ第五ノ五分ニ最高能率達シ夫ヨリ五分乃至十分間ハ其ノ最高能率ヲ保持シ、漸次疲勞シ能率カ低降スルモノナラン。

女子ニ於テハ第六ノ五分ニ於テ最高能率達シ第一ヨリ第三ノ五分迄ハ急ニ能率ヲ増シテ夫ヨリ以後ハ殆ト微少ノ差異ヲ以テ漸次能率ヲ増シ最高ノ第六ノ五分ニ至ル第七、八ノ五分ハ漸次低降シ疲勞ヲ示ス讀字數ノ曲線ハ計字數ト異リ回期性ニ凹凸ヲナシ多少性質ヲ異ニシ其ノ最高ノ五分ハ第五ノ五分ノ所ニ存在シ第六ノ五分ハ低降ス、斯ノ如ク性質ヲ異ニスル兩曲線ヲ比較スル事ハ困難ナル事ニシテ從テ其ノ平均ヲ得ルモ亦無意味ニシテ尋常三年ニ於ケル能率ハ先ツ比較的理想ニ近キ計字數曲線ノミヲ採用セリ、要スルニ尋常三年ノ女子ハ第四ノ五分ヨリ第六ノ五分迄カ最高能率ニシテ夫ヨリ低降スルモノナラン。

終ノ第十ノ五分迄ハ(約三十分間)最高能率ヲ保持スルモノニシテ四十五分課業ハ極メテ有益ナル經濟的能率ヲ用ヒ得ルモノナリ、讀字數曲線ハ甚ク不規則ニシテ之ト比較シ且ツ平均曲線ヲ得ルコト不可能ナルカ故ニ此ノ場合ニ於テハ計字數曲線ノミヲ採用シ他ハ之ヲ省ク。

尋常五年作業

第五表

項目	加算法		讀字法	
	男	女	男	女
第一ノ五分	83.4	83.4	52.3	67.5
第二ノ五分	85.7	84.0	60.9	54.4
第三ノ五分	89.1	89.8	54.6	62.6
第四ノ五分	90.7	89.9	53.7	63.8
第五ノ五分	91.0	89.6	59.3	62.0
第六ノ五分	88.8	89.8	64.2	64.0
第七ノ五分	91.1	91.4	59.2	70.1
第八ノ五分	92.4	91.8	62.7	63.7
第九ノ五分	92.1	91.1	64.1	64.1
第十ノ五分	89.3	95.5	64.5	64.5
第十一ノ五分	89.6	94.5	64.5	64.5
第十二ノ五分	88.9	95.5	64.5	64.5

男子計字數曲線ニ於テハ第一ノ五分ヨリ第三ノ五分迄ハ字數急ニ増加シ第三ヨリ第六ノ五分迄ハ第五ノ五分ヲ以テ頂点トスル一山ヲ描キ第六ヨリ第十ノ五分ハ第八、第九ノ兩五分ヲ以テ頂点トスル第二ノ最高ノ山ヲナシ第十ヨリ第十二ノ五分ニ至ル迄第三ノ山ヲナス然レトモ第三ノ山ハ第一ノ山ト同高

男子ニ於テハ第四ノ五分迄急激ニ上昇シ此處ニ最高點ヲ表シ第六ノ五分迄低降シテ夫ヨリ再ヒ増進シテ第八ノ五分ニ於テ第四ノ五分ト殆ト同高ノ最高點ニ達シ之ヨリ第十ノ五分迄ハ再ヒ低降シ第四ト第八ノ五分ニ最高點ヲ有スル定期性曲線ヲ造ル讀字數ニ於テハ極メテ理想的ノ曲線ヲ作り、第七、八ノ兩五分カ最高能率達シ之ヨリ低降ノ傾向ヲ見ル、其平均曲線ニ於テハ理想ニ近キ曲線ニシテ第三ノ五分迄急激ニ進歩シ第四ノ五分ヨリ殆ト甲乙ナク高點ヲ維持シ第八ノ五分ニ至テ微少ノ上昇ヲナシ最高點ニ達シ之ヨリ低降ス、要スルニ尋常四年ニ於テハ第四ノ五分ヨリ第八ノ五分迄カ最高能率ヲ有スル時期ニシテ之ヨリ漸次疲勞ヲ呈シテ能率ヲ減ズルモノナラン。

女子ノ計字數曲線ハ第四ノ五分迄ハ急激ニ上昇シ之ヨリ少シク低降スレトモ殆ト直線的ニ(微少ノ變動アレトモ)第九ノ五分ニ達シ第四ノ五分ノ最高能率ヨリモ極メテ僅ナル差ヲ以テ最高點ニ達シ之ヨリ低降ニ傾ク、要スルニ第四ノ五分ヨリ最